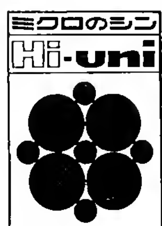
ハイ-ユニ

黒く・濃く・きれいに書ける理想のシン

そのヒミツは

理想の粒度配合



9H 6B·17硬度

1ダース1200円 1本100円

ハンドボール「第56号目次」

昭和43年8月号

表紙写真 全日本学生選手権決勝日体大一芝浦工大戦から(7月14日・松山商大球技場)

時評

シーズン制の確立

インカレ・インターハイ・総合・教職員と大きな大会が目白押しに並んでいる。すぐに国体、それがおわれば、全日本選抜室内、更に実業団と大試合の連続だ。

各地の予選も大変な数だ。学生はそれに春秋のリーグ戦、高校では新人戦と息つくひまもないほど大会が続いているのが、現在の日本のハンドボール界である。

試合は一つでも多くやったほうが良い。試合から得る体験は貴重なものである、等々試合の盛沢山なことに賛意を表する意見も数多く聞かれる。

しかし、考えてみると、一試合一試合をじっくり反省し、次の試合へ欠点を除き、出場できるのでなければ、一試合の体験の意義というのは半減してしまうのではないだろうか。

充分反省し、新しい方針で行なう試合一試合と、ろくに考えもしないで次々と行なう二試合とどちらが意義が大きいだろうか。

日本協会でも、現在の大会をチェックし、再検討する試みはすでに出ている。しかし、なかなか従来の種々のいきがかりもあり、伝統を異にしている大会を合併したり、削除したりするのは困難なことである。

本年はオリンピックの関係で従来とは異った日程をたてざるを得なかったことが、より一層、試合の多さを痛切に多くの人々に味わせたのではないだろうか。

地方ではインターハイ、総合、国体と予選につぐ予選を行なわねばならず、日程の編成に苦慮しているとか聞く。

また今後増大するであろう国際試合のためにも、現在準備が進みつつある日本リーグのためにも、現在の大会のありかた、試合のありかたをハンドボール関係者全員で一考してみる必要に迫られている時期にきているのではないだろうか。

こういった観点にたつならば、今回の全日本学連の王座解消という決定はきわめて大きな意味をもとう。

王座は無意味じゃないかという議論は数年来でてきていた。しかし、王座とインカレの伝統は異っている。これを統合するか、削除するということになると一沫の淋しさを感じるのは学連関係者だけではあるまい。しかし、英断は必要なのである。

今回の全日本学連の英断に拍手を送るとともに、更に一歩すすめて、シーズン制を確立することを提言したい。試合に追われずじっくりと自分のチームを見つめる時期も必要であろうし、またトップレベルのチームが国際試合を行なう期間も必要になってくる。

ハンドボール界全員でシーズン制の問題を考え、よりよい解決の途を見つけようではないか。(TF)

男女とも日体大が優勝飾る

～全日本学生選手権・松山市～

立教（前年優勝）は準決勝で敗退

男子第11回、女子第4回全日本学生選手権大会は6月10日から14日までの5日間、愛媛県松山市の松山商大球技場（第1日のみ松山北高併用）に男子36校、女子8校が参加して行われた。

男子は予想通り関東勢がベスト・フオアを占めて激しい優勝争いを演じた末、準決勝で前年1位の立教（関東）を破った関東ナンバー・ワン日体大が、決勝でも宿敵の芝浦工大（関東）を接戦の末に降し、初優勝を飾った。

女子は、日体大（関東）—中京大（東海）と両学連1位同士の対決となったが、地力にまさる日体大が押し切り4年連続優勝を決めた。

▼男子1回戦（4試合）

山口大（中四国）21（13—6、8—11）17 東北学院（東北・北海道）
京都大（関西）20（8—13、12—3）16 明星大（関東）
大阪大（関西）19（11—10、8—4）14 熊本商大（九州）
中部工大（東海）27（14—8、13—7）15 本州大（北信越）

○……各試合とも実力伯仲で内容的にもなかなかよかった。

山口大×東北学院は、東北学院が前半門脇、今野の好技でリードしたが、山口大は終盤に中田と石川が活躍、逆転勝ちした。

京大×明星大は、前半大差をつけられた明星が後半になって追いこみ興味をつないだが、残念ながら勝負を変えるまでにはいたらなかった。

大阪大×熊本商大は熊本が後半18分12—14まで追いあげながら、そのあと再び大阪大の攻撃を受けて押し切られた。同型のチームだったが、試合運びで大阪大にブがあった。

中部工大×本州大は順当な結果に終った。11点をたたき出した中部工大・越智の強打が光る。

松山商大ら大勝

▽同2回戦

関学（関西）31（16—6、15—4）10 愛知教大（東海）
福井大（北信越）30（16—11、14—8）19 大阪外語大（関西）
早稲田（関東）25（13—5、12—7）12 西南学院（九州）
日体大（関東）22（12—4、10—2）6 名城大（東海）
関西大（関西）34（12—10、22—6）16 富山大（北信越）
名古屋大（東海）22（9—6、13—7）13 広島大（中四国）
順天堂大（関東）24（15—8、9—6）14 金沢工大（北信越）
中京大（東海）19（9—6、10—6）12 大阪経大（関西）
慶応（関東）28（9—9、19—8）17 岡山大（中四国）
中央（関東）23（12—5、11—7）12 甲南（関西）
大阪体大（関西）不戦勝 広島商大（中四国）
松山商大（中四国）41（19—4、22—5）9 金沢美術工芸大（北信越）
立教（関東）23（12—8、11—2）10 山口大
法政（関東）32（19—6、13—8）14 京都大
東京教大（関東）38（17—2、21—1）3 大阪大
芝浦工大（関東）34（21—2、13—4）6 中部工大

○……注目の中京大×大阪経大は、前半20分で5—5と予想どおりの接戦を展開したが、このあと中京が巧いコンビネーションプレーで5点を加えたのに対し、大阪経大は25分桐の1点だけに留まり試合の主導権を相手に与えてしまった。

後半も互角の戦況だったが、中京は鈴木が要所で巧技を発揮し、食いさがる大阪経大をつきはなした。

早稲田×西南学院は、前半5点差がつけられたものの西南の粘りに期待がかかった。

しかし、後半早稲田は森田、鈴木、尾島らの多彩な攻撃で20分までに連続7ゴールをあげて勝負を決めた。

中央大×甲南大は、前半24分甲南が7—6と逆転、波乱を思わせたが中大は森山の連続3ゲットであっさり試合のペースを奪いかえし、後半も7分12—9と詰め寄られたあと堀切が連続4ゲットするなど個人技を巧く活かして制勝した。

名古屋大×広島大は前半20分すぎまでは互角に進んだが、残り5分間に名大は4点を加え13—6とリード、そのままのペースで勝ちを握った。

このほかでは、やはり東西1部各校の安定した攻守が目立った。

16試合の結果はまったく順当で、平穏そのものといえたが、しかし、地方勢の力もはっきりと向上のあとを示し、特に個々の選手の中には、トップクラスにランクしてよい技術の持ち主が散見された。

これら有力選手を軸にしてチームとしての力がまとまれば、学生界の拡充は大いに期待することができよう。

地元松山商大がGKを除く全員得点41をマークしたのは特筆ものだ。

中京大、慶応を破る

▽同3回戦

立教 25（14—7、11—6）13 関学
早稲田 33（19—7、14—3）10 福井大
日体大 20（8—6、12—4）10 関西大
法政 38（19—6、19—4）10 名古屋大
東京教大 25（10—4、15—1）5 順天堂大
中京大 24（13—7、11—5）12 慶応
中央大 34（16—10、18—6）16 松山商大
芝浦工大 29（18—5、11—4）9 大阪体大

○……予想されたこととはいえ、関西勢、地方勢がバタバタと倒れ

た。そのなかにあって中京大がダークホースぶりを示し、慶応を破ったのは賞されよう。だが、この試合は番狂せとはいえない。中京の黒川、鈴木を軸とした攻撃の多彩さ、スピードははるかに慶応をしのいでいたし、守りの面でも出足のよいプレーで相手につけいるスキを与えない。中京大の完勝であった。

期待の関大、関学はいずれも立教、日体のカベを突き破れず2年つづけて関西勢はベストエイトに名を連ねることが出来ずに終ってしまった。

日体大×関大は前半10分で6ー1と日体が差を開き、その後も順調に加点、前半で大勢は決まった。

後半、関大は相手シュートミスをついて懸命の反撃を試みたが、脚力、シュート力の差は大きく勝機を得るにはほど遠かった。

立教×関学は、両チームともポストプレーからの変化で攻めあったが立教は5分間に2点、関学は1点というペースに終始した。

これは攻撃の芽の多少を示すものではなかろうか。相手のディフェンスをくずし、ゆさぶるルートは、はるかに立教の方が多く、それがスコアになったといってよい。

上り坂の大阪体大が芝浦工大にどう挑むかも注目されたが、勝負は前半14分の4ー3まで。芝浦はそのあと一気に5点をあげ、ハーフタイム直前にも新人・大江の巧技で2点を奪い試合を決めた。

前日、大量点をあげた松山商大も中央大相手では苦しく、後半の善戦が精いっぱいだった。

ベストフォア、関東勢占む

▽同準々決勝

立教 22（9ー5 13ー11）16 早稲田

得	【立大】		【早大】	得
0	川口	GK	綿貫	0
		GK	山本	0
6	野田		萩原	6
7	東		森田	1
5	戸田		鈴木幸	2
2	倉前		鈴木博	1
0	細川		尾島	3
2	加藤	主審（今村）	杉山	0
0	古谷		斉藤	3
			武藤	0
			遠藤	0
22	（3）	7MT	（7）	16

○……ここという大切な攻撃の時に、なんでもない平凡なミスが味方へ与える打撃は結果的にみて、1点、2点にはかえられぬものがあると思う。

早大はそのようなワナに自から入った感じが強い。

一方、立大はセット・オフェンスを有効に用い、野田の動きがパスプレーに活かされて、東のポストにうまく結びついた。また、ここぞという時の速攻も効果的であった（辻）

日体大 14（8ー5 6ー6）11 法政

得	【日体】		【法政】	得
0	本田	GK	金	0
0	加藤	GK		
3	森		大山	2
7	高橋		石川	4
0	瀬島		川島	2
2	早川		五十嵐	0
0	藤中		柳	0
2	谷藤	主審（増岡）	荒井	1
0	塩崎		出口	1
0	大川		武井	1
0	加藤		西村	0
14	（4）	7MT	（3）	11

○……速攻の応しゅうも本田、金両GKの美技に阻まれて得点に結びつかず、勝負は遅攻の成否にかけられた。

日体は速いパスを左右に廻してポスト、サイドを使い分け得点をあげたが、法政は日体のディフェンスをくずせず、前半20分以後は7MTで3点（いずれも石川）を得たにとどまった。

後半も日体は多彩な展開で10分には12ー6とリードした。法政は15分すぎから相手の攻撃を封じこみ、小刻みに得点を返していったが及ばなかった（近藤）

東京教大 16（10ー4 6ー9）13 中京大

得	【教大】		【中京】	得
0	上野	GK	有川	0
		GK	戸田	0
1	古屋		鈴木	3
0	畑		黒川	5
0	稲垣		柳沢	1
5	平岡		高見	4
4	浅野		北川	0
3	斎藤		杉本	0
2	水藤	主審（村田）	杉山	0
1	梁川		吉田	0
0	住森		三輪	0
16	（3）	7MT	（2）	13

○……2ー3の劣勢から教大は6点を連取して前半23分8ー3と開くという一気の攻めが、教大を勝利に導いた。

互いに速攻を用いて攻めあったが、中京大にシュートミスが目立ち、そこを教大がうまくついて、サイドから浅野がゲットした。

後半、中京大はスピード豊かな攻撃で正面から反撃、14分には11ー13まで追いつめたが、もう一息というところでGK上野の堅守にあって逸機したのは惜しい。

中京大の健斗で大いに盛りあがった一戦だが、教大の勝利は、上野の冷静なプレーによったといってもよい（近藤）

芝浦工大 24（9ー5 15ー6）11 中央

得	【芝浦】		【中央】	得
0	杉山	GK	望月	0
0	高橋	GK	佐々木	0
6	明石		佐野	3
1	秦		堀切	0
6	白神		森山	0
1	大矢		児玉	4
4	新実		喜田	2
3	大江		植木	2
2	山中	主審（稲石）	長広	0
1	金子		植田	0
0	村上		佐藤	0
24	（1）	7MT	（3）	11

○……立ちあがり芝浦は秦、明石、村上のコンビ攻撃で4ー1とうまく滑り出し主導権を握り、それ以後、中央の反撃を受けながらも常に余裕をもつことができた。

後半も芝浦は、速攻とポストプレーを使い分けて加点、一方的な経過となり、結果的には期待をうら切る大差ゲームになってしまった。

中央は、機先を制せられてから調子をくずし、散発的に得点しただけで、まったくよいところがなかった（増岡）

日体ー立教、延長の熱戦

▽同準決勝

日体大 16（5ー6 8ー7 …… 2ー2 1ー0）15 立教

得	【日体】		【立教】	得
0	本田	GK	川口	0
0	加藤	GK	天野	0
2	森		野田	5
1	塩崎		東	3
5	高橋		小野口	1
1	瀬島		戸田	0
2	早川		倉前	0
5	藤中		細川	0
1	谷藤	主審（辻）	加藤	0
0	斎藤		古谷	0
0	大川		有永	6
16	（4）	7MT	（2）	15

○……期待にたがわぬ好試合だった。立教は前半4ー1とリードされたところで、温存していた有永を起用してボールを集め、中央からの攻撃で日体陣を破り逆に1点のリードを奪った。

後半は、いっそう得点の経過がめまぐるしくなり21分には11ー9と日体が優位に立ったが、立教もすかさず野田、東、小野口の得点で13ー11と逆転、残り5分間を逃げ切るかにみえた。

しかし、粘る日体は26分、28分森のゲットでタイに追いつき延長戦へもつれこんだ。

延長後も、たがいに巧みなポストプレーを応しゅうしあい、15ー15から後半へ勝負をかけた。後半

1分、日体は藤中が貴重なリード点をあげ、そのあと4本づつのシュートを射ちあったが、得点とならず結局1点差で日体が、2連勝を狙う立教を降した（荒谷）

芝浦工大 25（9−7 16−14）21 東京教大

得	【芝浦】		【教大】	得
0	高橋	GK	上野	0
0	杉山	GK	古屋	3
1	明石		畑	0
1	秦		稲垣	1
3	村上		平岡	3
6	白神		住森	1
0	山中		梁川	0
9	大江	（主審 村田）	浅野	8
2	大矢		斎藤	3
1	金子		水藤	2
2	新実			
25	（1）	7MT	（6）	21

○……立ちあがり0−2とされた芝浦は、5分をすぎるあたりからようやく調子が整いはじめ、チャンスをうまく活かして17分には7−3と主導権をがっちり掌中に握った。教大も平岡が本調子ではなかったが、浅野、古屋の巧技ではなれず、GK上野の好守もあり、後半に勝負をもちこんだ。

後半に入ると、教大は斉藤の活躍で4分10−10とタイにしたが、そのあとわずかなスキをつかれて2分間に4点を失いあっさり主導権を奪いかえされたのは拙かった。

優位に再びついた芝浦は中盤攻撃の手をゆるめず、20分には22−16と差をつけ、そのまま押し切った。教大は、終盤になって平岡のシュートが安定しまた速攻もでたが機すでに遅く、惜しまれよう。

芝浦では白神、明石にはさまれた新人大江が9点をあげる活躍を示したのが光り、一方、教大では前日につづくGK上野の好守と、得たる7MT6本をすべて決めた浅野の巧技が断ぜん目立った。

準決勝ともなると、さすがにトップチームの激突にふさわしい試合内容となり、みごとなプレーが連続したが、大きな将来の目標を考えれば、せめてベストエイトの対戦に、この程度のレベルを期待し、4強戦はさらに一段上の展開が理想であろう（今村）

▽同3位決定戦

立教 20（8−11 12−4）15 東京教大

○……試合開始直後、教大はポスト、サイド攻撃を使用し、これがたてつづけに決まり3点の先行なった。

立教はディフェンスのコンビネーションが悪いのが苦戦の因だったか、15分すぎから攻守ともに立ち直り追いかけた。

後半、立教は野田の好リードから東の多彩なシュートで9分11−11としたあと、さらに3点を連取して逆転、以後は互角に勝負を進めて3位を確保した。

教大は、後半疲れが目立ち、それが敗戦につながった(今村主審)

芝浦工大の急追及ばず

▽同決勝

日体大 14（7−6 7−6）12 芝浦工大

得	【日体】		【芝浦】	得
0	本田	GK	杉山	0
0	加藤	GK	高橋	0
6	森		明石	0
4	藤中		秦	2
0	瀬島		白神	1
0	斎藤		山中	3
0	谷藤		大江	0
1	塩崎	（主審 稲石）	新実	4
2	高橋		村上	1
1	早川		金子	0
0	大川		大矢	1
14	（0）	7MT	（2）	12

コートサイドから

藤田信義

共に決勝戦を意識してか固くなりシュートミスが多くでたが、前半数少ないチャンスを速攻で得点にむすびつけた日体のリードで終るが芝工大の大矢の3分間の事故は芝大の組織的な動きをくるわせた。

一方日体は後半に入っても自己のペースを守り手固く攻め得点を重ねたのに対し、芝浦は白神、新実のシュートミスが最後までひびいて日体大の勝利に終る。しかし日体大のラフプレーは今後つつしまなければならない。芝浦も一名の事故で調子を落すようではいただけない。

（大会審判長）

TV観戦記

藤本強

前半開始時は芝工大、中盤以後は日体大という経過で前半は日体大のリードで終了。後半開始後も日体大のペースで、芝工大をこれを盛上げるような動きが目だった。そのあと停滞状態、それを破って芝工大の3点連取で23分には1点差。これがヤマだった。そのあとペースは日体のものとなった。芝工大はチャンスメーカーを欠いたこと、日体は本田を中心にした好守がゲームを大きく作用した。

凡ミスが多く、チームプレーを忘れることが両チーム共にあり、連日の疲労はあろうが日本を代表する両チームだけにより一層の努力を積んでもらいたい。

また両チームとも得点の全くない時間がかなりある。10分以上得点がないことが芝工大に2回、日体に1回ある。どんな相手に当ろうと、この形になれば、絶対というものを、チーム全体として、また個人として身につけてほしいものだ。目標は日本で勝つことだけでない筈だ。世界の檜舞台が待っているのだから！

歴代優勝校

第1回〜第5回	芝浦工大（関東）
第6回	立　教（関東）
第7回〜第9回	芝浦工大（関東）
第10回	立　教（関東）
第11回	日体大（関東）
女子 第1回〜第4回	日体大（関東）

中京、東女体大を破る

日体大の連勝「69」に伸びる

▼女子予選リーグA組

中京女大（東海） 15（6−2 9−4）6 東京教大（関東）

日体大（関東） 不戦勝 松阪女短大（東海）

日体大 19（8−4 11−4）8 東京教大

中京女大 不戦勝 松阪女短大

日体大 12（5−2 7−1）3 中京女大

（この試合記録は決勝リーグに適用）

東京教大 不戦勝 松阪女短大

【順位】①日体大3戦全勝②中京女大2勝1敗＝以上決勝リーグへ③東京教大1勝2敗④松阪女短大3敗（棄権）

○……日体大、中京女大が攻守に一日の長をみせて初出場の東京教大を降したが、東京教大も山口、韮沢の得点力を活かして善戦、今後の活躍に楽しみを残した。

日体大−中京女大は、前半はた

がいのディフェンスをくずすことが出来ず凡戦だったが、後半になるとスピードの差がではじめ、日体大が石井の強肩を巧く使って加点、快勝した。

▼同B組

東女体大（関東） 32（16−1, 16−0）1 大阪体大（関西）
中京大（東海） 21（13−4, 8−3）7 日女体大（関東）
東女体大 29（14−1, 15−3）4 日女体大
中京大 18（9−1, 9−4）5 大阪体大
中京大 16（4−8, 12−7）15 東女体大
（この試合記録は決勝リーグに適用）
日女体大 6（4−2, 2−3）5 大阪体大

【順位】①中京大3戦全勝②東京女体大2勝1敗＝以上決勝リーグへ③日女体大1勝2敗④大阪体大3敗

○……中京大が東京女体大を降したのは特筆されよう。

関東同士の首位争いがいつまでたってもつづいていたのでは発展はのぞめず、それだけに前半ダブルスコアのハンデを後半はねとばした中京大の気力は絶さんものである。

試合は、東女体大が多彩な攻撃で一方的に進め、後半4分11−4と開いた時には誰もその勝利を疑わなかった。

ところが、中京大は、そのあと石山、砂浜、安田、森らがチャンスをことごとく得点に結びつける驚くべき粘りを発揮、次第に点差をつめた。

こうなると追われる身はもろい東女体大は逆にシュートミスが目立ち、ついに22分15−15となり、中京大はタイムアップ寸前、砂浜が鮮やかな倒れこみで劇的な逆転シュートを決め勝ちを握った。

それにしても、女子学生界のゲームでこれほど熱気に満ちた試合は近来になく、その成長を示すに充分であった。

他の2校では、日女体大がキャリアにものを云はせて大阪体大（初出場）をおさえたが、両校の実力に大きなへだたりはない。いっそうの精進を期待したい。

日体大、苦戦を勝ち抜く

▽同決勝リーグ

日体大 11（6−2, 5−7）9 東京女体大

得	【日体】		【東女】	得
0	小野里	GK	阿久沢	0
3	川口	FP	熊谷	0
0	原	FP	浅見	0
2	石井	FP	若尾	0
1	古川	FP	姫野	3
2	沢谷	FP	川井	2
2	津熊	FP	中島	1
1	中村	FP	堀江	3
0	山下	FP	伊部	0
0	藤田	FP	菊地	0
11	（2）	7MT	（2）	9

（主審 稲石）

○……関東のライバル同士。日体は前半川口、沢谷の豪快なシュートで得点、守っては姫野をよくマークしてソツのない試合運びを示した。

後半、東女体大はみちがえるような動きを見せ、サイドぎりぎりから川井・堀江がゴール、姫野も本領を発揮して後半3分から連続7点をもぎとり、15分には9−7とアヘッドした。

しかし、日体大も奮起、16分沢谷、19分中村でタイ、さらに20分石井で逆転し、22分古川がダメを押した。

東女体大は、一たんリードを奪いながら、ホッとしたのかディフェンスに気力が欠け逆転を許したのは反省を要す。

両軍の射ちあいで派手な展開となったが、両軍GKの美技がいっそう試合の内容を盛りあげた。

それにしても、女子学生界はシーズンごとにその力を伸ばし、好試合がみられるようになったのはたのもしい（野村）

中京大 9（4−4, 5−3）7 中京女大

得	【中京】		【中女】	得
0	西岡	GK	北岡	0
0	佐野	GK		
0	石山	FP	国沢	2
1	稲葉	FP	都築	1
3	安田	FP	深田	0
1	砂浜	FP	大崎	1
4	森	FP	鈴木	1
0	黒丸	FP	板谷	2
0	野口	FP	楠瀬	0
0	窪田	FP	小松	0
0	稲井	FP	近藤	0
9	（2）	7MT	（2）	7

（主審 近藤）

○……春の東海学生では1勝1敗となっており実力は伯仲。スタートの悪い中京大をうまくとらえた中京女大は都築のバウンズ・シュート、板谷のミドルで先制し、13分には3−1とした。

中京大は、そのころからようやく攻撃のエンジンがかかり、安田の連続ゴールなどで逆転したが、中京女大も終了直前の7MTを国沢が決めてタイとした。

後半はともに決め手を欠き、15分で6−5と中京大が一歩先行したものの勝負の帰すうは判らなかったが、体力に優る中京大は森のシュート力を活かして差を開き、粘る中京女大を振り切った。両チームとも無用の反則が多いのは反省して欲しい（河本）

東京女体大 20（8−0, 12−4）4 中京女大

得	【東女】		【中女】	得
0	阿久沢	GK	北岡	0
0	高橋清	GK	宅永	0
6	浅見	FP	国沢	0
1	若尾	FP	大崎	2
4	姫野	FP	鈴木	1
1	川井	FP	楠瀬	0
0	中島	FP	板谷	1
3	高橋恭	FP	大坪	0
3	堀江	FP	近藤	0
0	伊部	FP	小松	0
2	熊谷	FP	深田	0
20	（0）	7MT	（0）	4

（主審 野村）

○……3年連続2位確保がならなかった東女体大だが、この日は元気いっぱい、疲れが見えた上、リーダー都築を負傷で欠いた中京女大を押しまくった。

中京女大は、攻撃に特色がなく、しかも凡ミスが続いてはこの大敗もしかたがなかった。

東女体大では熊谷、浅見の好リードを活かした姫野、高橋恭の新人ばなれした攻撃力が目立ち、敗れた中京女大では、GK北岡が定評どおりの好守を見せたのが光っていた（辻）

日体、後半一気に勝負決す

日体大 16（8−7, 8−4）11 中京大

得	【日体】		【中京】	得
0	小野里	GK	西岡	0
0	秋間	GK	佐野	0
3	川口	FP	石山	1
1	原	FP	稲葉	2
0	古川	FP	安田	6
0	山下	FP	砂浜	0
2	沢谷	FP	森	2
2	津熊	FP	黒丸	0
0	中村	FP	野口	0
8	石井	FP	窪田	0
0	藤田	FP	稲井	0
16	（4）	7MT	（0）	11

（主審 辻）

○……無敗同士の対戦。連戦のため、両校とも故障者が多く、ベストコンディションにはほどとおかったが、この一戦にかけた気力がそれを吹きとばした。

試合は一進一退から日体大が、川口、沢谷のロングシューターに球を集め、相手デフェンスの浮きを誘っては、石井が切れこんでゲットするという策戦が図にあたり17分には6−3とリードした。

しかし、中京大もひるまず安田、森、稲葉らのゴールで21分には7−6と逆転した。日体はハーフタイム前川口、石井で8−7と再度主導権を握った。

後半になると、中京大の動きに精彩がなくなり、得点がパタリと

止まったのに対し、日体大は要所で得た7MTを確実にモノにしながら、原からの配球を川口、石井津熊らが好シュート、次第に点差をあけて14分15—7と勝利を決定づけた。

中京大は安田のシュート力を活かすアシストが欠けているようで追いつめながらも総合力で、日体大に一歩をゆずったのは惜しまれる。また、この日は、特に後半パスワークにスピードが乗らなかったのも敗因といえる。

日体大はこれで第1回以来無敗の4連ぱ。昭和36年秋以来の対学生連勝記録は「69」にまで伸びた（野村）

女子決勝リーグ

	日体	中京	東女	中女	勝負
①日体大	……	○	○	(○)	3 0
②中京大	●	……	(○)	○	2 1
③東女体大	●	(●)	……	○	1 2
④中京女大	(●)	●	●	……	0 3

注・（　）内は準決勝リーグでの勝敗

〃〃〃〃〃〃〃〃男女全国優勝の記録〃〃〃〃〃〃〃〃

全日本学生選手権で日体大が男女優勝の偉業をとげたが、全国大会の両部門優勝は史上6回目のこと。日体大としては昭和31年第2回全日本総合室内についで2回目だ。このほかの記録は大阪ク（第2回国体一般）、徳山高（第18回国体高校）、大崎電気＝2回（第16回全日本総合・第5回全日本実業団）の3チーム。

学・生・界・記・録

桃山学院大が初優勝

第3回大阪学生夏季トーナメントは6月29、31の両日大阪関大球技場に14校が参加して行われ、準決勝で3連勝を狙う関西大から抽せん勝ちの幸運を得た桃山学院大が初優勝した。

▽1回戦
大阪大 23—21 追手門学院
大阪歯大 17—15 大阪市大
大阪経大 29—9 大阪府大
大阪薬大 棄権 近畿大
桃山学院大 24—13 大阪外語大
大阪工大 23—15 大阪教大

▽準々決勝
大阪大 23—17 大阪歯大
大阪経大 16—13 大阪体大
桃山学院大 24—16 大阪薬大
関西大 32—3 大阪工大

▽準決勝
桃山学院 17（9—8, 8—9）17 関西大
抽せんの結果、桃山学院大の勝
大阪大 棄権 大阪経大
（注）大阪経大は全日本総合近畿予選会のため棄権

▽決勝
桃山学院 25（14—6, 11—9）15 大阪大

決勝戦、秋までもちこす

第18回東北地区大学総合体育大会ハンドボール競技は6月28、29の両日山形県の竹田女高グランドに10校が参加して行わた。岩手大と東北大が決勝に勝ち残ったが、雨天のため優勝戦は中止となり、秋季リーグの両者の対戦に〝優勝〟がもちこまれることになった。準決勝までの成績は次のとおり

▽1回戦（2試合）
岩手大 27—17 山形大
福島大 32—10 日大工学部

▽準々決勝
宮城教育大 31—17 弘前大
仙台大 40—20 秋田大
岩手大 29—19 東北学院大
東北大 40—16 福島大

▽準決勝
岩手大 29（15—6, 14—8）14 宮城教大
東北大 32（17—8, 15—5）13 仙台大

東海国立は愛知教大

第17回東海地区国立大学体育大会ハンドボール競技は7月13、14の両日名古屋市に6校が参加して開かれ、愛知教育大が2度目の優勝をとげた。

▽予選リーグA組
名大 27—20 名古屋工大
名大 24—17 岐阜大
名古屋工大 27—20 岐阜大

▽同B組
愛知教大 25—15 三重大
三重大 28—16 静岡大
愛知教大 31—21 静岡大

▽5・6位決定戦
岐阜大 29—17 静岡大

▽決勝リーグ
名古屋大 28—19 三重大
愛知教大 36—17 名古屋工大
名古屋工大 23—17 三重大
愛知教大 23—21 名古屋大
名古屋大—名古屋工大、愛知教大—三重大は予選記録を適用

【順位】①愛知教育大3戦全勝②名古屋大2勝1敗③名古屋工大1勝2敗④三重大3敗

九州大・九産大破り優勝

▼第2回福岡学生新人トーナメント（6月30日・東海大体育館）

▽準々決勝
九州産業大 20—10 福岡教大
福岡工大 17—16 久留米工短大
九州大 24—7 東海大
西南学院 15—14 福岡大

▽準決勝
九州産業大 21—11 福岡工大
九州大 17—7 西南学院

▽決勝
九州大 20（12—7, 8—4）11 九州産大
九州大は初優勝

関大、法政を破る
東西大学定期戦

▼第20回法政—関大（7月8日・関大）
関西大 25（14—11, 11—7）18 法政

▼第23回早稲田—関学（6月28日・早大記念会堂）
早稲田 16（9—8, 7—7）15 関学
早大は4連勝。通算成績は関学14勝9敗

▼第21回明治—立命館（6月16日立命館大）
明治 36（19—4, 17—5）9 立命館

▼第21回慶応—京大（7月6日・京大）
慶応 25（10—10, 15—5）15 京都大
慶応は4連勝。通算成績は慶応の14勝5敗2引分

▼第15回慶応—甲南（7月7日・神戸王子体育館）
慶応 24（9—15, 15—6）21 甲南大
慶応は4連勝。通算成績は慶応の13勝2敗。

竜谷大、男女チーム結成か

竜谷大（京都）では、このほど男子及び女子チームを結成することになり、早ければ今秋から関西学生連盟に加盟する。

これで京都地区の大学チームは6校となり、また関西女子学生界も大阪体大、竜谷大の2校となった。

大崎の2連勝か、学生勢の勝利か（男子）

6日から長崎で全日本総合選手権

アウト・ドアシーズンの日本一を決める第20回全日本総合選手権大会は8月6日から10日までの5日間、長崎市営球技場で開かれる。

参加チームは、男子が協会、学連、実連などの推せんチームと全国ブロック代表の合わせて32チーム（フルエントリー）、女子は実業団を主に12チームである。

すでに組み合せも別表のように決まり、各チームは栄冠をめざして最後の調整に入っている。大会の展望を試みてみよう（編集部）

× × ×

男子は、トップチームと第2群のレベル差がせばめられ予断を許さない。後続群の水準向上が招いた結果だけにこれは喜んでよい傾向だ。

しかも今大会は、1回戦で強者同士がぶっかりあい、波乱に富んだ展開となりそうである。

Aブロックでは2連勝を狙う大崎電気（埼玉）と学生界の覇者日体大（東京）が有力。

大崎は、昨年学生勢の若さと力をおさえるのは難しいといわれながら、ベテランの持ちあじを活かした試合運びでみごとに優勝を飾った。今年は近藤の巧技に飯田（同大出）、籏野（早大出）、太田（中大附高出）らを加え、力でも充分学生勢に対抗できよう。監督を兼ねた竹野がいぜん元気だし、西村、片山、井上、GK福本らも健在、試合運びの巧さは抜群である。

日体大は、関東学生優勝で好調の波に乗り、全日本学生でも覇権をがっちり握った。高橋を軸に谷藤、早川、藤中、斎藤、森らの攻撃力は安定している。GK本田の堅守も大きな武器だ。大崎には、昨年11月（東京選手権）勝っており自信があろう。

関西大（大阪）—住友化学（愛媛）、福井教員（福井）の三者はチームの持ち味を存分にふるえれば"一発"が期待できる。加藤、白石、GK季原を中心の住友化学が"学生の壁"を破るかどうかは一つの話題。

地元・全長崎は大宮（日体大出）をリーダーに長崎教員と長崎大が中心になって編成されている。

Bブロックは東京教大（東京）大阪イーグルス（大阪）の争いか。

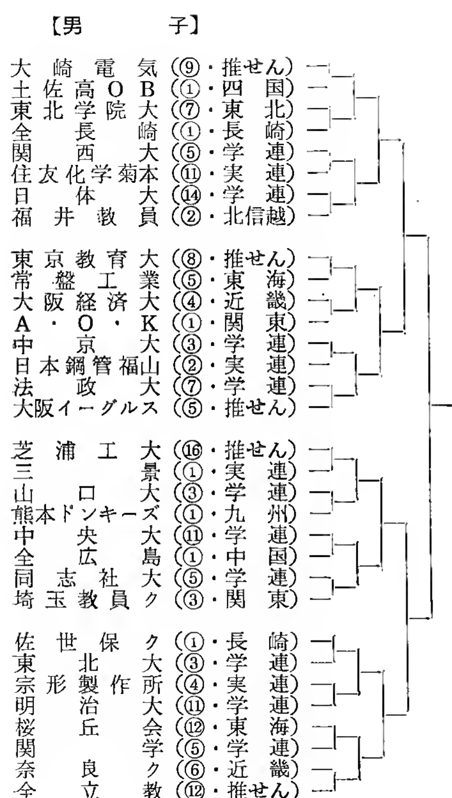
東京教大は平岡、浅野、GK上野らが攻守の要（かなめ）で波にのれば優勝の力もある。大阪イーグルスは青木、北岡、東、GK島崎らベテランに、今春日体大を出た福井、樫塚を加え、チーム力に厚味をました。

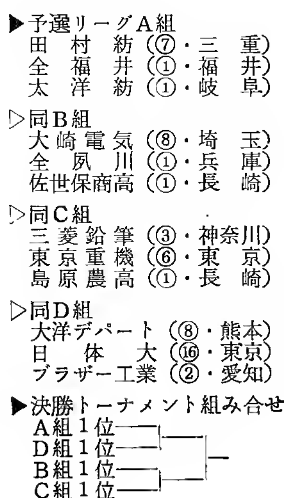
しかし、東京教大の緒戦の相手常盤工業（岐阜）は高橋の強打と山田（芝浦工大出）の巧技を誇り大阪経大（大阪）も軽視はできぬ。大阪イーグルス側にも、学生界の惑星法政大（東京）、中京大（愛知）が控えている。

法政は、全日本学生では、故障あがりの主力が完調とはいえず不本意にすごしただけに、この大会にかける斗志は侮れない。大山、石井、川島、荒井、GK金らのプレーはスケールも大きい。中京大も松山ですっかり自信をつけた。黒川、鈴木の動きは定評がある。巧者イーグルスといえどもさばくのには骨がおれそうだ。もつれる可能性は充分にある。AOK（栃木）も予選で有力といわれた日進商会（神奈川）を降しており元気。

Cブロックも混戦状態。1回戦はすべて互角の顔合せといってよいだろう。

全日本学生準優勝の芝浦工大





(東京)は、関東学生の時よりも上向いているが、切れ味はけしてよくない。ゲームメーカー高鍬が骨折で出られそうにないのも痛い。明石、白神、秦、山中らにはさんで登用している新人新実、大江の出来も一つのカギ。チーム結成2年目を迎えた三景(東京)は江名、尾形、竹村ら円熟したプレイヤーと若手の榊、高梨、内藤らがうまくとけあって好チームにまとめあがっている。中央大(東京)は森山、喜田、堀切らの攻撃力は相当なものだが、全広島も市原(菊松会)近森(芝浦工大—日新製鋼)と二人の大型選手を揃え、得点力ではヒケをとらない。

同志社大(京都)—埼玉教員(埼玉)も好勝負。舟木、町田、中井、中野ら若さの同志社に対して埼玉は北井、高田、結城、GK高橋らの巧技が主力。西部学生1位の山口大(山口)—熊本ドンキーズ(熊本)も接戦が予想される。

Dブロックは、全立教(東京)が勝ち進むだろう。

東、野田らの現役勢に昨年の立役者木野、北村の両OBが加わる。

学生界の5冠王となったメンバーが再現するわけだ。木野、北村とも4月以来ほとんど現役と合流しており、スピード・スタミナの不安はまったくない。

鳥井ら関西学生OBで固めた奈良ク、高橋、新、小川らに小林(芝浦工大出)、川島(東京教大出)を加えた桜丘会(愛知)、西野、細井らの関学(兵庫)、全日本学生を捨ててこの大会一本にしぼった明治大(東京)、ベテラン揃いの宗形製作所(大阪)などの実力もトップクラスだが、総合力で全立教に一歩ゆずざるを得らまい。

雪じよく期す全立教

好調日体大も有力

さて、順当ならベストエイトは大崎電気—日体大、東京教大—大阪イーグルス、芝浦工大—同志社大、明治大—全立教となろう。

波乱があれば大阪イーグルスに代って法政大または中京大、同志社大に代って埼玉教員、中央大とみる。

さらに焦点をベストフオアへしぼった場合、芝浦工大と全立教の勝ち残りは確定的のようで問題はやはりA及びBブロックだ。ただし、Bブロックはどこが残っても大崎—日体大の勝者をしのぐことは難しいのではなかろうか。

この段階に来て大きくクローズアップされるのは大崎電気の2連勝5回目の優勝が成るかどうかだ。昨年同よう学生勢の若さと力をどう切りくずすかがカギで特に日体大戦は大きなヤマ。

■炎天下、連日の一本勝負ということを考えれば、学生勢の迫力が有利と思えるのだが果してどうか。ミュンヘン・オリンピックの開催決定で、学生界はいやがうえにも刺げきされているだけに、いっそうその期待が有望に思える。

大会後に決められるであろうナショナルチームのメンバー選こうに大きな作用を及ぼすと想われるし、それが、2年後の世界選手権(フランス)、4年後のオリンピックへ向かう貴重なスタートにつながるだろう。高度な内容を切望したい。また、悪条件を克服して土佐高OB(高知)、桜丘会(愛知)熊本ドンキーズ、佐世保ク(長崎)、奈良クと

女子世界代表の特別出場とりやめ

日本協会では、今冬ソビエトで開かれる第4回世界女子7人制選手権に出場する全日本女子チームを、第20回全日本総合選手権へ特別出場させることを検討していたが、他の参加チームとの実力差が大きく、実質的な強化に役立つ面が少ないなどの理由からとりやめることにした。各選手は所属チームからも今大会には出ない。

なお、全日本女子チームは、8月22日から9日間、三重県四日市市・田村紡で第3次強化合宿を行う予定。

20回目迎えた全日本総合

○……昭和25年1月、寒風の吹く愛知県一宮市の九品寺球技場に男子14、女子3チームを集めて開かれた第1回以来、この大会も20年近い才月が流れた。

この間に全日本の最高タイトルをめざしたチームののべ数は男子が五二八、女子が一二六にのぼる。

大会の推移は、そのまま日本ハンドボール界の移りかわりといってもよい。

○……この大会が生んだ名選手、強チームの数は限りがない。いや名選手、強チームはこの大会を経てはじめて生まれるのだといってもよいだろう。大会の歩んだ道はかならずしも順風満帆であったとはいえない。

初期のころは、参加チームが大会開催地周辺に片寄ったり、ある時は"関東大会"などともカゲ口された。女子は参加チームが少く第2回大会はいきなり決勝、昭和27年(第4回)はついに休会となるなどした。

昭和38年からは7人制一本化となり(注・女子は32年から)全日本総合室内(現在の全日本選抜)とどちらが権威があるのかといって物議をかもし、一時は、この大会の解消まで考えられたほどだ。

○……そうしたピンチを乗り切って20年の球史を刻めた最大因は参加チーム、選手の熱意だ。

炎天下に刻んだ青春の想い出が深く強く残り、それが後進へ伝えられ"夏の全日本"はゆるぎないものとなっていったのである。

また、功績として忘れられないのは地方への普及だ。

二、三の例外を除いては、国体開催の前年にその会場を使うのが慣習である。これまで関東5回、北信越4、東海・中国・九州各3、近畿、東北で各1回開かれており、それぞれ立派にその成果が実らされている。

○……しかし、ミュンヘン・オリンピックに備えての国際的進出など頂点強化を考えれば研究の余地・課題も少なくない。

男子は昭和37年から予選制が採られているが、いっそう充実した姿とするためには、予選ワクや推せんワクの再検討が欲しいし、開催期日、開催場所なども改めて考えなおす時期に来ているのではないだろうか。

20年の年輪は、大会の転機を示していることも事実のようである。(S)

6つのクラブチームが本大会出場を果しているが、その情熱に敬意を表するとともに、健斗を願ってやまない。

なお、本大会は別掲のとおり記念すべき20年目であり、九州では3年ぶり3回目の開催である。

三菱、初優勝のチャンス

不安定な4強の戦力

女子は、各組3者による予選リーグのあとその勝者によって決勝トーナメントが争われるが、世界選手権代表12人（田村紡7、大洋デパート、大崎電気各2、三菱鉛筆1）が出場しないため、有力チームはエースを欠いてかなり不安定な戦力となっている。予選リーグ各組から勝ち残るのは順当なら田村紡（三重）、大崎電気（埼玉）、三菱鉛筆（神奈川）、大洋デパート（熊本）の4チームだ。

このなかでは、三菱鉛筆が蓮見（代表）を欠くだけで、いちばん力が残っているように思う。

三井田、落合、江川、阿部、両佐々木らベテランの好リードで姫野、藤原、加藤の新人トリオが成長し、攻守ともに厚味がある。初優勝のチャンスだ。

昨年優勝の田村紡は二軍で参加のため、いかに甲村、吉開、GK坂上ら準レギュラーが奮戦しても〝選手権〟を守り抜くことは難しいだろう。

大崎と大洋は代表欠場をみこして練習を積んでおり、それぞれ『勝算あり』の構えだが、大崎では木幡、久保田、小林、山崎、栗林、神藤、新人三浦。大洋では渡辺、枝尾、射場、米、田中ら〝留守〟をあずかるメンバーがどこまでその力を示すかにかかって来よう。大洋には世界選手権代表を辞退し今秋限りで退陣を噂される名手・新保が出場するがこれは大きい。

この間げきをぬって学生界の常勝日体大（東京）、新進太洋紡（岐阜）、進境を示す東京重機（東京）、国体を控えた全福井がどのような試合ぶりを示すか興味深い。

特に、日体大は、他校の実力向上の影響でたくましさが身について来ている。川口、石井、原らを軸の攻撃力は捨てがたく、大洋デパートも油断は禁物である。

太洋紡は初出場だが真田、森本美、GK河村らでまとまっているただ、総勢8人という持ち駒不足が連戦に不安を残す。

東京重機は山本、鷺谷、滝口、畑岡、GK川本らに今年加った牧野が定評通りのプレーを示しており、チーム全体の力もあがっている。ブラザー工業（愛知）は期待の新人朝倉、楠田が負傷しているが家田、五十嵐（元愛知紡）を軸にどこまで健斗するか。

全福井には立林（日体大出）が加わり、若手を引っぱっている。

地元から出場の二高校は強豪にはさまって苦しいが、ひるまず実力を発揮して欲しい。クラブ界から唯一チーム参加した全夙川（兵庫）の情熱も注目してよい。

残念なのは愛知紡（愛知）の欠場だ。過去6回の優勝歴を誇る名門が退社や故障者の続出で、ついに12年連続出場をあきらめてしまったのはなんとしても淋しい。一日も早いカムバックを期待しておこう。

トッププレイヤーの欠場で「なかみ」がうすくなることはさけられぬが、逆に、これまでスポットの当たらなかった若手選手に活躍の場が与えられたといってもよく、代表選手に後のつづく新星が数多く輩出することを望んでおこう。

全日本総合ブロック予選

太字は代表

▽……東北

東北学院大（宮城）＝予選は行われず、東北協会の推せんによる。

▽……関東（トーナメント）

▽1回戦

埼玉教員（埼玉） 38―7 甲府ク（山梨）
日進商会（神奈川） 22―15 光電工業（群馬）
A・O・K（栃木） ―
明星ク（東京） ―

▽代表決定戦

A・O・K 18―16 日進商会
埼玉教員 15―11 明星ク

▽……北信越（リーグ戦）

高岡三日会（富山） 27―14 金沢市役所（石川）
福井教員（福井） 37―9 金沢市役所
福井教員 32―17 高岡三日会

【順位】①福井教員②高岡三日会③金沢市役所

▽……東海

▽1次戦

桜丘会（愛知） 19―13 清商ク（静岡）
常盤工業（岐阜） 21―6 本田技研（三重）

▽2次戦（勝者が代表）

桜丘会 21―12 本田技研
常盤工業 27―6 清商ク

▽……近畿

▽1回戦

大阪経大（大阪） 20―12 洛東ク（京都）

▽代表決定戦

奈良ク（奈良） 22―20 甲南大（兵庫）
大阪経大 32―17 住友金属（和歌山）

▽……中国（トーナメント）

▽1回戦（1試合）

境高（鳥取） 14―10 松江工（島根）

▽準決勝

全広島（広島） 34―18 境高
下関ク（山口） 19―12 岡山大（岡山）

▽決勝

全広島 27―16 下関ク

▽……四国

土佐高OB（高知）＝予選は行われず、四国協会の推せんによる。

▽……九州（トーナメント）

▽決勝

熊本ク（熊本） 18―16 熊本教員（熊本）

（注）1回戦～準決勝までの記録は本誌54号30頁第4回九州選手権の項参照。熊本クは「ドンキーズ」のニックネームで本大会に出場。

財務委員決定

総務局の中に予定されていた財務委員会（委員長 浜田猪三郎常務理事）は古賀健一郎（実連推薦理事）、滝口三郎（従来西ドイツ特別会計担当などしばしば特別会計を担当）、藤本強（常務理事）の三名を委員に決定した。

IHF総会近づく

8月30・31日アムステルダムで

馬場・荒川両氏が出席

第12回IHF総会は八月三十・三十一日の両日、オランダのアムステルダムに世界43の加盟国代表を集めて開かれる。
日本からは馬場太郎副会長・荒川清美理事長を派遣することになっている。
加盟国が増えていることから、今度の総会はIHF史上最大の総会になるものと見られ「オリンピック問題」が中心議題となって進められることになるだろう。

IHFは第二次大戦前及び戦中に各国ハンドボール協会の世界組織であった国際アマチュアハンドボール連盟のあとを受けて、第二次大戦後に組織されたハンドボール界の唯一無二の世界組織である。

IHFの創立はすでに本誌でも何度も触れているように、1946年のコペンハーゲンに於ける第1回総会に於いてである。

この第1回総会に参集したのは僅か8ケ国で今日43ケ国の参加を見る大連盟に発展していることを考えると、いかに順調に発展してきたかが判るであろう。今総会にも、新規加盟の申請がかなり出されている模様であり、加盟国が50ケ国をこすことも考えられる。

この総会はIHF規約に第6条にあるように「最高の権威を持ち、かつ最終的決定機関である。」のだから、IHF最高の議決機関である。

総会は西暦の偶数年に、つまり二年毎に開催されることになっている。これもIHF規約第6条に明示されている。この他に、加盟国もしくは理事の請求および会長の招集によって、臨時総会が開かれるが、これは1948年に一度パリで開かれただけである。

総会に各国協会は3名の代表を送ることができ、一票の投票権をもっている。

総会では、前回の議事録の承認会計報告、会長をはじめとする人事の問題、事業計画、大会の割当予算の決定、各国の提案の審議等のIHFの最重要案件を審議・決定し、次期総会までの間の執行を理事会・常務理事会・競技委員会に委任する。

今回は県案事項の複審制の問題・1972年のミュンヘンオリンピックの問題（男女開催・予選をどのようにするかなど）・新規加盟国の問題といった重要案件が議題に予定されている。

今回の総会の主議題は、何といっても36年ぶりに開かれるオリンピック問題であろう。IHFとして強く要望している男女開催をIOCにどのようにしてもっていくか。また、予選方式をどのようにするかなどが焦点となろう。

馬場副会長は8月23日羽田を発ち、総会後約三ケ月欧州17ケ国のハンドボール界を訪問し、第4回世界女子7人制選手権見学（12月・ソビエト）後、来年1月中旬に帰国の予定。荒川理事長は8月17日羽田を発ち、西ドイツに向かい同国関係者とミュンヘン・オリンピックなどについて談合のあと総会に出席し、9月上旬帰国する。

なお、出席を予定されていた渡辺和美氏（日本協会副会長）は公務多忙のため渡欧しない。

IHF総会出席にあたって

日本協会副会長　馬場太郎

今回の総会では会長、首席及び次席副会長、理事長、会計理事、競技委員会委員長及び理事7名の改選が行われますが、日本としてはこれを契期として、此の際理事国に立候補すべく、過日の評議員会に、提案され可決されました。私は首席代表に選ばれて出席いたしますが、客観的に見て、この立候補は難事中の難事と思われます。

現在迄僅々二回の出席の実績極東の一角の日本の立候補、連盟、加盟国43ケ国とは言いながら欧州に集中し、欧州集権主義の従来の方針の一角を切り崩す事が出来るかどうか。あの手、この手を打って見ましたが仲々しんどい事です。只残された点は議事進行に伴い、ブロック別に理事選出の方針に規約の一部変更を要請するか、それが「ノウ」の場合は連盟規約第50条による会長決定によるる外はない事になります。不幸にして選にもれた場合は次期を「ねらい」捲土重来の執念をもって各国要人らに布石はして参りますが兎に角私は背水の陣で総会に出発します。一方理事国候補にもまして、緊急を要すると思われる事は、競技委員会（技術委員会）のメンバーをねらい、国際審判員の養成や、各国ナショナルチーム監督のためのシンポジウム等に関与するのが日本の現時点における注目点ではないでしょうか。兎に角今日ほど日本の各人が、国際ハンドボール社会に積極的に進出する必要にせまられている時機はないでしょう。

日本は過去数回に亘り男女チームを世界選手権大会に派遣し、大会終了後は各国との親善試合を行い、友好を深め、且又一方ルーマニア、西独、フランスの男女チームを日本に招致していますので彼等は極東における日本の実力を充分に知悉している筈です。私はこの度の総会には胸を張って、加盟諸国の代表に、日本の実情と実力の程を鼓示してきたいと思います。

『全日本学生王座』の解消決まる

全日本学連　来年から女子も東西対抗

全日本学生連盟では7月9日松山で今年2回目の全国総合役員会（代表者会議）を開いた。

懸案となっていた全日本学生王座決定戦の存廃について活溌な論議がくりかえされたが20年にわたる同大会の目的は一応果たされたことと、夏の全日本学生選手権（インター・カレッジ）が学生界にゆるぎない基盤を築きあげているという2点の意見が支配的となり、今年12月1日大阪で開かれる第21回大会をもってその歴史を閉じることに決定した。

これにともなって、全日本学生選手権の秋季開催が協議されたが当分の間は従来どおり、夏季休暇を使って行なうことが申しあわされた。

来年度の全日本学生選手権は7月東京で開催することにし、今後は東京、大阪、名古屋の三地区で開催を引きうけるようにつとめることになった。

今秋（9月15日・愛知県体育館）開かれる予定の女子の東西対抗については、関西学連の女子チームが軌道にのらぬため、関東―東海学連対抗戦として実施することになり、来年度から正式に東西対抗を始める。

このほか、短大（男）、高専のとりあつかい、東海学連の西地区転籍希望などが話題になったが結論は出されなかった。

【解説】〝王座〟がついに姿を消すことになった。昭和33年に全日本学生選手権が開かれるようになった時から、〝王座〟の解消は決定づけられていたといってもよいだろう。

もともと〝王座〟は、昭和23年に全日本学生選手権を開けるようになるまでということで始められたもので、当初は「東西学生王座決定戦」の名で運営されていた。その後、昭和32年からは「全日本学生王座決定戦」と改称され東日本王座（選手権）、西日本王座も学生王座予選をかねて行なわれるようになり、全国各校の大きな目標におかれたのだが、全日本学生選手権とどちらが権威があるのか、といった論議も年とともに高くなっていた。

初期の構想からすれば全日本学生選手権開始と同時に〝王座〟は発展的解消をしてもよかったのだが、王座をめぐる各校の執念、愛着の深まりは、すぐに廃会へと割り切ってしまうことのできないほどになっていたのだ。

そのため、全日本学連でも今回の決定までには3年近い月日をかけ、最近の会議は、きまってこの問題がトップに審議されていた。結論を導くまでには慎重を期そうという意見が強くようやく今回各学連の意向をまとめることができたわけだ。

問題として残るのは、秋に目標がなくなり、各学連の秋季リーグ戦が、〝来年をめざす〟新人戦化してしまうことになりはしないかということだ。

この懸念を防ぐために、全日本学連では全日本学生選手権の11月開催の意向をもっていたようだが実現されず、今後どのような措置をこうじていくか注目されよう。

ともあれ、21年の歴史を刻んだ全日本学生王座決定戦は静かに消えていく。この大会を彩った文理大（現・東京教大）、関学、日体大立教、芝浦工大、同志社大、関西大などの健斗は、日本ハンドボール史にも大きな足跡を残した。なかでも昭和24年から、6年間連続王座に就いた関学の活躍は、さん然と輝やくものである。

学生王座をめざした学生プレイヤーの情熱が、残された全日本学生選手権一つに集中されいっそうの発展に実ることを期待したい。

なお、20年以上の球史を持つ大会が解消されるのは日本ハンドボール界では初めてである（杉）

定期的な日韓交流確立か

ソウル発合同＝共同電（7月23日）として各報道関係が伝えるところによると韓国教育部は、日韓高校スポーツ交流は今後毎年開かれる日韓高校スポーツ交歓競技会を除いてすべて禁止することを決めた、という。

この決定が実現をみるかどうかは別として、交歓競技会種目になっているハンドボールは、今後毎年定期的な交流が継続されることになりそうである。

新刊紹介　茨城協会創立20周年記念誌

▽……たいへんな労作である。しかもなかなかの豪華版（B5判・総アート一五六頁）だ。一地方協会で、これほど克明に球史をまとめたのはハンドボール界ではめずらしいのではあるまいか。

記録を中心にしているのも斯界ではまれなことだ。

水泳や陸上などとちがって記録を争う競技でないためもあるが、古い大会の資料整備が不ゆきとどきなのはハンドボール界の悪習である。

茨城協会が記録を中心とした協会史を編さんできたのは、平生からそうしたことに忠実であったということにもなろう。

▽……この記念誌を手にとっていちばん感激するのは、一頁々々に刻まれた〝当時〟の選手たちであろう。過ぎさった青春がこのようにして、たとえそれが敗戦の苦い思い出にせよ立派に残され、晴れがましく伝えられていることはどんなに嬉しいことだろう。

先輩の業績を偲び、尊ぶことの貴重さを改めて教えてくれたといってもよいと思う。

なお今回は限定版一千部で関係者に贈呈された。茨城協会は昭和32年にも「10周年記念誌」を刊行している。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

藤本　強

イタリア球界の最近

ヨーロッパ諸国が盛んにハンドボールを行い、諸国内の発展にもめざましいものがあった中で、地中海につきだしたイタリアだけは最近に至るまでその萌芽も見られず、球界地図の中で、一つだけ空白になっていた。地中海をとりまく諸国で行なっている各種競技を含む地中海大会でも、参加諸国のほとんどは、ヨーロッパ、アフリカを問わず、ハンドボールに参加しているにもかかわらず、イタリアだけは孤立していた。

このイタリアにハンドボールを普及させようという動きがおこったのは最近になってからのことであった。

その間、各国のコーチを招いたり、あるいは、各国の優秀チームを招いてのデモンストレーションゲームを行なうなどして、着々地盤を固めつつあった。

昨年になってようやく、協会が設立され、積極的な活動を開始した。

イタリア語ではハンドボールはパラマーノと呼ばれ、「我々、若者のための若いスポーツ」という言葉で呼ばれている。

ルールブックには7人制のみしかとりあげられていず、最近の世界球界の情勢ならびにラテン諸国環地中海諸国の情勢から云えば、当然であるといえよう。

昨年は協会発足一年目であったにもかかわらず、いくつかの国際試合を行なっており、今年も男女とも国際試合を行なうことが計画されている。

現在、ここの国の協会の方針と云えば、まず普及にあるのは当然であろうが、もう一つ旗印に掲げているものがある。

それは他でもない。全世界のハンドボール競技者がすべて望んでいるオリンピックに参加し、そこで競技をすることである。

昨年発足したイタリア協会でさえ、ミュンヘンを頭に入れ、それに出場することを目標にして、強化に力を入れているのである。

我国も早く強化体制を作りあげ一刻も速く具体的にミュンヘンをめざさないと、諸国に遠く遅れをとってしまうことになる。

イタリアの標語は「1972年のモナコのオリンピックにパラマーノが行なわれる」である。ミュンヘンはイタリア語ではモナコにフランス語ではムニークになることをつけ加え、日本のハンドボール界挙げて、ミュンヘンへの具体策が一刻も早く作られることを切望しておこう。

ユーゴー球界昨今

ここの国内リーグは男子12チーム、女子10チームによって争われている。

男子ではヨーロッパ杯の上位をしばしば占めているパルチザン・ブジェロバール、メドベスカク・ザグレブをおさえて、RK・スルベンカが首位を占めている。後半戦の展開によってはどのようになるかは判らないが、国内優勝はRK・スルベンカ、パルチザン・ブジェロバールからでることになろう。4位を占めているのは、かって来日を希望したディナモ・パンチエボである。

女子はロコモチバ・ザグレブ、これまた来日を希望したことのあるポドラブカ・コプリブーナ、ORK・ベルグラードといった常連が上位を占めている。

ロコモチバ、ザグレブはドイツ方面に遠征旅行に出、SCクレーブン09を7—3で、ブラウバイス・アムステルダムを9—4で、ハンブルグ選抜を8—6で、かってのヨーロッパ杯の覇者HG・コペンハーゲンを9—2で、アドラー・ミュンスターを14—1で、ESV・ミュンスターを7—3で、HC・プラッテンフアイドを13—1で敗っている。

ドイツの強チーム、バイエル・04・リバクーゼンには3—4で苦盃を喫している。このような状況から見ると今回のユーゴーはきわめて強力なメンバーをもっているとみなければなるまい。

また本誌52号に紹介したようにユーゴーに帰国したズラトコ・ザグメスター選手はユーゴーの期待にたがわず帰国してからもますますその技にみがきをかけている。

先日行なわれたメドベスカク・ザグレブとドイツのOSC・ベルリンとの試合に於いても、好技を連発して28—11とザグレブが勝利を得る一つの大きな要因となっている。

彼の帰国によって、ユーゴーは大きくオリンピックへ一歩踏みだしたとしても云いすぎではない。

ヨーロッパ諸国間の交流もますます盛んになり、熱ぽいふんいきになってきている中で、大きく前向に歩を踏み出し、選手強化に努めているのが、昨今のユーゴー球界の状況である。

大崎電気がネデフ氏（ルーマニアコーチ）招へい

注目される成果　9月に4週間の指導を依頼

実業団の男女トップチームを持つ大崎電気（埼玉）は、九月にルーマニアからコーチを招いて約一ケ月間その指導をうける計画のあることを明きらかにした。

招へいされるコーチはルーマニア・ナショナルチームコーチングスタッフの一人ニコライ・ネデフ氏で、現在ヨーロッパ球界の若手指導者の中でも五指に入る理論家である。

大崎電気の今回の計画は、同社渡辺和美社長（日本協会副会長）のかねてからの念願を実現したもので、日本チームが本場ヨーロッパからコーチを招くのは初めての試みでもありその成果が注目される。

ネデフ氏は8月31日に来日し4週間埼玉県入間郡の大崎電気埼玉工場コートで同社男女チームを指導する予定。

詳細は近く大崎電気から正式に発表される。

× × ×

外国からのコーチ招へい——特に指導体系が理論的に確立され、進歩的な技術を常にあみだし、国際舞台でも実績のあるルーマニアチェコ、東西ドイツなどから適任者を招きたいという希望は、日本協会技術部あたりでも最近しきりといっていたことだが、具体化せず保留されていた。日本協会にさきがけて大崎電気が独自のルートで、画期的な試みを実現させたのは、渡辺和美氏（同社々長）の熱意によるところが大きい。

渡辺氏は、以前から外人コーチの必要性を説いており、ともかくも自社のチームの指導をゆだねることになったもので、大崎電気男女がネデフ氏からどのような技術と理論を学び入れるか興味深い。

渡辺氏の当初の構想ではＩＨＦ技術委員のイオン・クンスト氏（昭和35年来日、前ルーマニアナショナルチームヘッドコーチ）を招くことにしていたのだがクンスト氏からネデフ氏が推せんされ同氏に決まったものだ。

ネデフ氏は、二年前からクンスト氏の跡を継いでナショナルチームのコーチをつとめており、ＩＨＦ筋からもその指導力を高く評価されている人。これまでにも母国をはなれて各国のコーチを行っており、最近ではイスラエルに招かれ、渡欧した日本チームとも再三接触している。

全国的な「体力測定」を実施

技術調査資料委員会

日本協会技術部調査資料委員会では、全国各チームの協力を求めて、プレイヤーの体力測定を行うことになり着手した。

体力測定の結果にもとづいて、各層、各分野別に指導理論や、その体系を固め、頂点から底辺にいたるまでのレベルアップを企ろうというもので、その成果が期待される。

今回の測定の対象とされるのは、各都道府県協会さん下の中学、高校、実業団の男女各一チームと全国7学連に加盟している男女各校で合わせて約二百五十チーム・三千七百人にのぼる。

測定は身長、体重、腕囲、胸囲、腿囲などの「形態的課目」と筋力、パワー、敏捷性、持久性、柔軟性などの「機能的課目」の2課19項にわたるが「機能的課目」の主な内容は次の通りである。

（イ）遠投（ロ）20メートルダッシュ（ハ）9ｍ3往復値（ニ）サージャント・ジャンプ（ホ）ローリング（連続横転）（ヘ）両足連続3回とび値（ト）体前屈（チ）上体そらし（リ）踏み台昇降運動（ハーバード・ステップ・テスト）（ヌ）腕立伏臥腕屈伸

技術調査資料委では、近く全国に調査測定要項を発送するが、測定にあたって、「形態的課目」の各項は午前10時頃に行って欲しい。測定人数はレギュラーメンバー（ＧＫ1、ＦＰ6）その他8名の合計15名とし各項目測定値7名の合計及び平均値、8名の合計及び平均値のほか全員（15名）の合計及び平均値などを算出して欲しいと要望している。

調査の〆切りは10月1日で、同委では、送られたデーターを年内にまとめる意向である。

全日本教職員選手権大会
組み合せ決まる
―初のリーグ・トーナメント式で―

第11回全日本教職員ハンドボール選手権大会は8月24日、25日、26日の三日間、奈良県橿原体育館と県立畝傍高校体育館の両会場を使って開かれる。

本大会は参加21チームという多数のチームを集め多くの要望を入れて本大会はじめてのリーグ・トーナメント形式で行なうことに決定した。

予選の組合せは別掲の通り7月26日・東京で決定した。予選は25分―5分―25分で行なわれ、各組の一位チーム、7チームによって、別掲の組み合せによる決勝トーナメントが行なわれる。

予選リーグはすべて第一日に行なわれることになっている。決勝トーナメントの組み合せは、予選リーグ終了後に抽せんで決定することになっているので、現在ではどのような組み合せになるか不明である。

予選リーグの予想は各チーム強化につとめているので仲々困難であるが、ここで一応予想をしてみることにしよう。

A組は東、青木、井上、島崎などのベテランに配して、新人として、樫塚、福井をいれ、連勝をねらうに十分な陣容をもつ。大阪イーグルスが決勝トーナメントに進出するのは確実であろう。神奈川教員団、愛知教育大学OBの善戦を期待したい。

B組は大阪イーグルスの有力な対抗馬である埼玉教員クラブの進出が確実視されている。

C組はまず岐阜教員のものであろう。盛時ほどの力はなくなったの評もあるが、その力はあなどれない。

D組は国体を控え強化につとめている福井教員が有力視されている。

E組はどこのチームにもチャンスがあると考えられているが、ベテランを揃えている福岡教員が進出するものと見られる。

F組は静岡教員団、山口教員が有力だが地元・興東クも元気だ。

G組は兵庫、大分の勝者とみたい。以上の予選から、決勝トーナメントは大阪イーグルス、埼玉教員クラブ、岐阜教員、福井教員、福岡教員、G組及びF組からの二チームによって争われるとみられる。

決勝トーナメントから抜けでてくるのは、どのような組み合せになるか不明なので確言はできないが、大阪イーグルスが最有力とみるのが、順当なところであろう。

これに埼玉教員クラブ、岐阜教員、福井教員、福岡教員がどのようにからむか、特に埼玉教員クラブは有力な対抗馬ということになろう。(F)

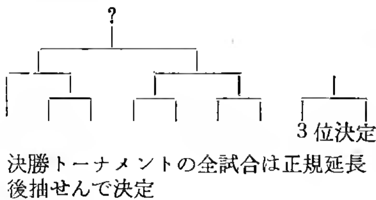
予選リーグ組み合せ

A組　大阪イーグルス，神奈川教員団，愛知教育大学ＯＢ
B組　埼玉教員クラブ，京都教員，岡山教員
C組　岐阜教員大阪市体育会，広島県教員団
D組　全茨城教員，三重県教員，福井教員
E組　福岡教員，栃木教員，滋賀県教員チーム
F組　山口教員，静岡教員団　奈良興東クラブ
G組　スワロー兵庫，新潟教員　大分教員団

各ブロック１位が決勝リーグ進出する

予選リーグは延長はしない，同率の場合は下記のポイント方式によって順位を決定する。

1．ポイント数，勝ち２点，引分け１点負け０点
2．総得点数と総失点数の差
3．総得点数



決勝トーナメントの全試合は正規延長後抽せんで決定

全日本高校選手権男子優勝校
8月13、14日ソウルで試合

第1回日韓高校総合体育大会は本誌既報の通り、8月ソウルで開かれるが、その大要が発表された。それによると、競技種目はハンドボール、陸上競技、サッカー、バレボール、バスケットボール、軟式庭球、バドミントの七競技で、日本選手団は役員、監督、選手合わせて百三人。高体連として百人を越すデレゲーションを海外へ送ることは史上初めてである。

日本選手団は、8月10日東京の岸体育館で結団式を行い、12日午前8時50分羽田発の日航機でソウルに向け出発、同日午後6時からの開会式に参加する。

競技は13、14の2日間行われ、一行は16日に帰国の予定。

ハンドボール(男子)の代表となるのは、今夏の全日本高校選手権優勝校13人と役員3人の16人で、役員については、このうち1人を日本協会役員とすることに内定しており、近く発表される。

日本ハンドボール協会創始期の思い出

連載第7回

松本良三

日独対抗試合

ハンドボールがドイツ渡来のスポーツであるということから、何等かの方法で、ドイツ人と試合をして見たいというのが我々の念願であった。その最初のものは、昭和12年に行われたヒットラー・ユーゲントとの試合であった。然し此時の試合は技術的にみて、大して得る所はなかった。それは、ヒットラー・ユーゲントは、特にハンドボールの専門家とゆうわけではなく、当時のドイツの軍国的訓練団体であり、結局、印象づけられたのは、その清楚にして綺羅びやかな服装と、わざとらしい行動形式であった。

斯様なわけで、今「思い出」として胸に浮ぶ日独対抗試合は、昭和17年11月29日に神宮競技場で行われたものである。此時の試合は本格的なものであった。

スポーツと国際親善

よく国家間の運動試合とゆうと、すぐ国際親善とゆうことを口にする人があるが、国際親善とゆうことはスポーツの本質に存するものではなく、異民族のスポーツ選手が心技体の極致を盡して激突する所に相互に尊敬の念を生じ、そこに国家観念を越えた人類愛の育成を来す所から来るのである。

米国の社会学者、C・H・クーリーは述べる、「よく統御されたスポーツは、即ち、公正と秩序の中に行われる対抗は、同胞感と親和の育成に役立つ、即ち、それは広く社会一般に望ましい友交的な競争心の発達に資するものなのである。実に、相互理解は只、対抗を通してのみ達し得るものである。激突のさなかに於て、相対する者は、所謂、怒髪天をつくものがあろう。然し戦終り、心静まれば斯くも驚くべき力を示した相手を尊敬と関心の眼を以て見るに至るのである。」 (C.H.Cooley: Social Organization pp.199~200

国内宣伝の意味も兼ねて翻って見れば、此時分の送球は、技術的に見て相当の進歩を遂げて居り、従ってそこに躍動する精神も高水準にあり、国際親善の目的を達し得るとの確信を持って居た。

そして我々は、国際親善もさることながら、此際、国内的にも出来るだけ多くの人に、殊にスポーツ専門家に送球を見てもらおうとゆう慾を出し、体協関係の方々は勿論、其他多数の人に懇切な招待状を出した。

史上最高の陣容

試合当日は、永井会長、ドイツのオット大使は勿論、体協の下村宏氏其他スポーツ界の御歴々が多数来て下さった。晩秋とはいえ、汗ばむような快晴であり、見物は数千にのぼり、気勢大いにあがった。

此時のティームは、其年の優勝校である日体が半数を占め、残る半分は慶応と早稲田の精鋭によってうづめられた。監督は池上金治、主将は高嶋冽、審判は外山準二であった。実に送球界史上最高の陣容であった。

男性美、高嶋冽

体格に於てまさるドイツ側の覇気。是れに対し、黙々として食い下がる日本軍。試合は一進一退の熱戦となった。試合中、ドイツの一選手がその長身を利して、日体の一選手の後ろからボールを奪いにかかった。日体選手は、是れに対し、少しも抵抗せず、ボールをかかえた儘急速に体を前にかがめた。ドイツの選手は、はずみをくって、日体選手の背に乗せられた。

此時、日本選手は立直る為、腰をあげた。相手は、此一瞬もんどり打って「トモエ投ゲ」を食った。此時の日体選手の身体の柔軟さと腰の強さはおどろくべきものがあった。そして私はここらに日体が体育学校としての基礎訓練の出来ていることを痛感した。

斯様な劇的な場面もあり、勝敗の帰趨は全くつかなかった。然し何といっても体の秀れたドイツティームに対し日本側の攻勢は、とかくつぶされ勝ちであった。スコアは6対6で時間切れは刻々にせまった。「ああ、やっぱり駄目か。」私は諦念におそわれた。ついに試合終了のホイッスルがなった。然し是れより、一瞬早く、敵の僅かの間隙をくぐって敵陣に切り込んだ主将高嶋は、ゴール・エリヤ左斜めのコーナの辺から鋭いシュートを放った。それは美事に定り、試合は7対6で日本側のものとなった。

然し高嶋は、シュートの瞬間、後ろから押し倒されバッタリ前に倒れた。少時、起き上らなかったが、立ち上った彼を見ると、彼のユニフォームは背中の所を大きく引き裂かれ、そこには血気あふれる筋肉が躍っていた。それは男性美、高嶋冽であった。

此試合で特に光ったのはゴールキーパーの島田重寿であった。彼はスポンジボーイと俗称されただけあって、よく球に飛びついて日本側の危機をすくった。彼のプレーはどこかハデな所があり、それは彼の前任キーパーで、日体ティームの主将であった徳永陸繁の堅実さと好対照と云える。此時、徳永は既に軍籍にあり、高嶋は此試合直後出征した。

スポーツと一般教養

試合が終ってから、私は幾人か

の体協関係のスポーツマンから「松本さん、面白い試合でした。それにつけても、送球協会では、選手に対し、余程よい錬成をするようですね。」と言われた。私は此讃辞を当日のティームに対し全面的に受け入れたかったのであるが、是れは当日のプレーヤーの中で日体から選ばれた人に当てはまると思った。当日の仕合にも見られたように早慶からの選手は技術に於ては、立派であるがどうも柔軟さに欠けているようである。是れは先にも述べたように日体が体育専門学校である故に、肉体の全面且つ多様な基礎訓練を行うことから来るようである。但し、茲で申し添え度いのは、此日体の長所は同校が専門学校から大学となった頃から急速に伸したようである。即ち肉体の錬成にも、一般教養科目、即ち、智的、文化的理解が重要な要素を為すことを物語るものである。



筆者は今から四十年以上前に、アメリカの大学でハンドボール（掌球）に夢中になっていたが、或年、そのトーナメントに参加した。此トーナメントに優勝したのはダラードとゆう、智的にも肉体的にも秀れた学生団の総師をしていた男であった。私は彼と準々決勝で当り、敗れた。其時に彼は「おい、松、お前、最近急に強くなったが、どうしたんだ。」と云った。私は「そうか」と答えたが、私は其わけを知っていた。私は此試合の直ぐ前に、約一週間続いた学位試験にパスしたのであった。つまり、肉体的にはむしろ疲れていた筈の私が、返ってハンドボールに強くなったのは、非常な智的緊張が、一般に肉体的のものと考えられているスポーツに反映したわけなのである。是れは広い意味での人格とスポーツとの相関問題で、いずれ稿を更めて論じたいと思う。

協会へ一言

似て最後に、此時の試合場での一事件に関連して、一言、協会へ申し述べたい。此試合の始まる直前に、中背の紳士が我々の居た役員席に入って来て、いきなり私とオット大使との間に入り、何かと、傍らに人なきが如く振舞うのであった。私は送球に関係して永年になるが、ついぞお目にかかったことのない人であった。人前であり、その儘にして置いた。然し、其人は間もなく姿を消した。

数日経て、此人は、文部省に事務所を持つ斎藤一男氏であることがわかった。早速お訪ねし、送球協会の肩書つきの刺を通じて面会を求めた。在室であるが、多忙の為、会えないとの事であった。相当ねばったが、遂に会えなかった。

私は終戦後、体協や日比谷の公会堂の地階の東京タイムズ社で式場隆三郎氏に数回、御目にかかり、別に形式ばって協会の専務理事をやめることなど話したことはないが、自分としては、式場氏が会長になられると同時に、私の理事としての役目は終ったものと考えていたし、今でもそう思っている。

所が「ハンドボール」誌第42号の第28頁によると、昭和17年に永井・斎藤体制なるものが生れたことになっている。是れは全く私の関知しないことで、もし是れがほんとうとすると随分乱暴な話である。私が、平沼、永井、大谷、中園等の人々の信任を得て、協会の面倒を見たもので、私は、微力ではあるが、忠実に其任を果したと思っている。売名や虚栄や気まぐれで、此任についていたのではない。私が人生の最盛期に丹精こめて築き上げた協会を、私に一言のことわりもなく、永井、斎藤体制なるものが出現したとするならば、それは以ての外の事である。

此時分、協会の活動が沈滞していたと見る人があるかも知れないが、それは当時スポーツ界全部にわたっての現象で、神宮大会の如きも、其内容は全く変ってしまっていたのである。外国輸入の所謂スポーツは皆退けられてしまったのである。今から思うと飛んでもないことのように思えるかも知れないが、私はそうは思わない。

成程、スポーツは心身の鍛練に役立ちはするが、国家存亡の危機に、国民が国防の為に総動員される重大な時に、スポーツの重要性の如きは、ものの数ではないのである。戦時態勢下の国防の重要性はスポーツの重要性に遥かに上まわるものなのである。

即ち、此時分に於て、私が協会に対する責務を怠っていたなどと誹謗する人ありとせば、彼こそは、えせ論理により自らの虚栄を満足せんとする社会の敵である。猶、斎藤氏に関し、外山氏、高嶋氏其他の方々にお質ねして見たが、諸氏の御答は一様に「全々知らない」とのことであった。

上述の理由により、私は送球協会に於ける永井・斎藤体制なるものの存在を全面的に否定するものである。

【写真は日独対抗試合開会式におけるオット駐日大使の挨拶。左は永井松三第二代会長、下村宏氏、筆者】

球界パトロール

鉄道管理局や新聞社チーム（一般男子）

今年度の本部登録から話題を拾う

▽……43年度の日本協会登録は5月31日で〆切られ、あとは新チームの追加登録を残すだけとなったが、山積みされた登録カードのなかから話題のチームを拾い出してみよう。

多種多様な分野からチームの送られている一般男子はさすがに異色チームが多い。なかでも釧路鉄道管理局（北海道）と山陽新聞社（岡山）の2チームは、急カーブを描いて加盟数が増している実業団球界でも、初の〝業種〟である。

▽……鉄道管理局のスポーツクラブは、社会人野球界では古い伝統を持っているが、ハンドボールチームは全国で初めてのこと。メンバーはいずれも釧路鉄道管理局輸送本部の職員である。北海道の実業団チームは、これまで函館ドックと神工業が登録されたことがあるがいつのまにかその名が消えてしまっているだけにこの面でも釧路鉄道管理局の今後に期待するところは大きい。

▽……山陽新聞社の登場も話題だろう。新聞社をはじめとする報道関係の職場スポーツはレクリエーション的色彩が濃くめったに日本協会へ登録することはない。三、四年前に大分記者ク（大分）というクラブがあったが本部には登録しなかった。全国区（?）へ名乗りをあげた山陽新聞社がどのような活動を示すか興味深い。

▽……今年の特色は「全県選抜」の形を採ったチームがかなり多いことだ。去年の全神奈川の活躍に刺激されたともとれるし、中央勢に対する地方の意欲の燃えあがりともみれる。

静岡協会などは、今年の国体（10月・福井）は全部門とも全静岡を編成する構想があると伝えられる。

〝全県〟よりも小さな単位では竜ヶ崎市連盟（茨城）が組織・チーム名ともユニークで目につく。

竜ヶ崎市出身の学生、社会人で編成したクラブだ。こうした市単位のチームが増えることは喜ばしい傾向で、竜ヶ崎市連盟の奮斗を期待したい。

関東学連各校の学連委員とマネジャーで組んだ学連ク（東京）も相変らず頑張っている。

▽……年々減る一方のOGクは、ついに一県で5チーム以上登録した地区がなくなってしまった。

トッププレイヤーを揃えた実業団との差は広がるばかりで、さしものOGたちも、その情熱に限界が来たのだろうがなんとも淋しい。

もの云わぬ一枚の登録用紙だがそこには球界の時の流れを感じとることができる。来年さらに5年後、10年後、登録用紙に託された〝歴史〟はどう変化するのだろうか……。

（X）

教職員大会時に 公認コーチ講習会開催

昨年9月普及部を中心にして、行なわれ、好評を得た「ハンドボール公認コーチ講習会」は今年度も行なわれることになり、競技局で準備がなされつつある。

本年は昨年の受講者から希望が強かった日時、場所をいれて、教職員大会の期間中に行なわれることとなった。

審判部でもこの教職員大会の時に講習会を行なう予定になっており、これと併せ行なわれる公算が強い。

主要なテーマは底辺の拡充のためには、どうしてもかかすことのできない中学校を対象にしたものになる予定である。

多くの問題をかかえている領域だけに、この講習会の成果は大いに期待される。

普及の中心になっている教職員の全国大会である教職員大会の時にこのような催しものがなされるのは、一人でも多くの人が参加できるようにとの希望が生かされたものであり、普及の効果が生かされることになろう。

今年も実施種目に
―全国スポーツ少年団大会はじまる―

昨年はじめて実技種目に加えられ、普及部員が中心になり、極めて有意義な効果を挙げた全国スポーツ少年団大会は、今年は「明治百年記念スポーツ大会」という名のもとに本栖湖の日本スポーツ少年団本栖湖センターで全国から約千二百名のリーダーを集め7月26日～31日の間に開かれている。

今年は本栖湖センター内に競技場をもたない競技は削除するという方針がうち出され、昨年とは内容的に大きく異ってきたが、本栖湖センター内に競技場をもたない競技のうち、ハンドボールは昨年同よう実施種目に加えられている。これは昨年の実績が大いに買われたからであろうか。

今回は普及部から、高橋健夫委員が指導に当ることになり、日体大ハンドボール部員4名、順天堂大ハンドボール部員1名が指導補助に出向いている。

今回は昨年と異なり、内容的にかなり高レベルのものが予定されていて、最終日には、集った少年団員相互による模範試合が行われる。

短時日の間に模範試合を行なうまでに指導するのは、かなり困難なことであろうが、昨年の実績をふまえて、スポーツ少年団の中に、また全国の少年少女の中に、ハンドボールを深く定着させ、普及に大いに役立ててもらいたいものである。

スポーツユーゲント 横浜で三菱鉛筆が対戦（8月19日に予定）

今年もドイツスポーツユーゲント少年団がやってくることになった。

昨年は佐世保で女子チーム同志が親善ゲームを行ない、明るい話題を投げたが、今夏は日独親善にはきわめて因縁の多い横浜市で親善試合が予定されている。

横浜といえば、31年に来日の西ドイツ選抜軍、昨秋相たずさえてやって来た西ドイツ男女チームの親善試合が行なわれるなど、きわめて西ドイツとは親しい土地柄。市が西ドイツとの交歓にきわめて、友好的であるのも、当然と云えよう。

ドイツスポーツユーゲントは8月16日に横浜に入り、親善を深めた上、8月19日に親善試合を予定している。

残念ながら、ハンドボールの対戦は女子のみであり、男子は三ツ沢球技場でサッカーが行なわれることになっている。

昨年の佐世保とは違い、前もって判っている日程だけに、より一層の親善が期待される。

昨年のドイツスポーツユーゲントチーム例を見ても判るように、戦術・技術などの競技面での内容の高さは期待できそうもないが、西ドイツの一般レベルのハンドボールを知ることによって、いかに国内に普及しているかを身をもって体験することができるのは、交歓の実をあげ、親善を深めるとともに大いに有意義なこととなることだろう。

日本側の対戦チームとしては三菱鉛筆チームが対戦を予定されている。

横浜市、神奈川県協会など主催者の努力が実り、日独親善のきずながより強く結ばれることを期待したい。

フランスの技術研究(12)

ブロックプレーを積極的に

訳 藤本　強
(日本協会常務理事)

先々回から攻撃編に入り、攻撃の基礎として必要なパスの問題、動き方、選手の位置のとり方、位置の変化をとりあげてきた。今回からは種々のフオーメーションを例をみながら、示していくつもりであるが、その前に現代のハンドボールにとつて、もう一つ忘れてはならない基礎となるものをとりあげておかなければならない。

先回にとりあげたように選手相互の位置の交替(いわゆるクロス)は、攻撃の拠点を作りだす際にきわめて有利であるが、それをより一層確実なものにするために、ブロックをとりいれていくのが、現代のハンドボールである。

競技規則の6―3にあるようにハンドボールでは、進路に立ちふさがることは何ら反則ではない。しかしながら、たとえ体でやるとしても、アメリカンフットのように、相手をそのいる位置から排除するといつた動作したがつて、瞬間的に守備のスキを作るような、ボールを扱う選手と呼吸のあつたブロックでないと効果は薄い。また最近の試合で散見される手で守備側の選手をつかみ、ディフエンスさせないようにするのはブロックとは云えない。

このブロックがいかに多くの局面で有効であるかは、次々に例示していくことにして、まずブロックというものを考えていこう。

ブロックプレーが現代ハンドボールになくてならないプレーであることはすでに多くの人々が語つている。

特に7人制ハンドボールに於いては、攻撃範囲が狭くなり、守備の壁も厚い。そこでノーマークを作り出すためには、ブロックプレーは不可欠な要素となる。

攻撃側選手が位置を交替することによつて、バックを動かす。それを更に持続させ、ノーマークを作り出すためにブロックを使用するのである。

一般的に云えば

1、すべての攻撃側の競技者は常に守備の選手を自分に引きつけるようにする。

2、ブロックするプレーヤーは動作に現してはいけない。直接自分をマークしている守備側のプレーヤーを充分に引きつけておき、ブロックに入る前にブロックするのと逆の方向にフエイントをかけることをする。

3、ブロックの動作に入る前に二三のフエイント動作がバックを引きつけるために必要である。

ブロックプレーには、基本的に二つの形が考えられる。

一つはクロスをして、ボールを持つているものが、パスをしたあと、ブロックをする形をとるブロックプレー。

他は、ボールをもつていないものがやはりクロスをする形に走りこみ、そのままブロックをし、ボールをもつているものはそのままもしくはドリブルをして進む形をとるもの。

ブロックの前には全速ダッシュを

このどちらの形をとるにしろ、ブロックをする場合には、攻撃側同士のクロスが基本になるし、このクロスをする場合に、ブロックをする者は全速ダッシュで、そのままにしておいたならば、ノーマークになつてしまうと守備側に思わせるような位置に入つていくことが必要である、ブロックをすることにより、ノーマークを作る原則は、一人の攻撃側の選手が二人以上の守備側の選手を引きつけるところにあるのだから、ブロックをする選手を本来的にマークしている守備側の選手が引きつけられないような形のダッシュでは、守備側の選手はいつでも、チエンジをし、守備の壁は崩れない。クロスをし、鋭いダッシュ・フエイントによつてチエンジを不可能にし、ボールをもつている者につく守備側の選手をブロックによつて動けなくし、ボールを持つている選手をノーマークにするのが原則的なブロックプレーである。

ブロックプレーは基本的に云えば瞬間的に行なわれるのが望ましいが、少しでも持続できるならばそのような技術をもつのも有効である。この技術の基本は何といつてもフットワークである。ピボットその他あらゆるフットワークの技術を駆使して、長く持続させることが望ましい。

以下に種々の実用例を引きつつ見ていくことにしよう。

ドリブルによるもの、パスによるもの、二人で行なうもの、三人で行なうものなどの具体例を示そう。もちろん、これは原則的なものであり、応用例は各チーム、各選手によつて生みだされ、互いの意志がずばり通じあうようになつていないと成功しない。

1 パスなしの二人によるブロックプレー(1図)

A2はD2の側にいて、十分にD2を引きつけている。A2はまず右へ一歩踏み出し、D2をゆさぶる。すぐに左に返つて、ダッシュする。位置はD1の背面をねらう。ここにノーマークが生じた場合はまず一点は確実となるので、D2はA2をがつちり、マークし、あとを追う。D2はA1に近づいた時にピボットし、A1のコースに立ちふさがる。

その時ボールをもつているA1はまず左へフエイントをかけ、D1を左に動かし、すぐ右に入る。D1はA1を追おうにも、そのコースには、A2がいるので、動け

ない。そこでA1はノーマークになる。

ここで問題になるのは、A1とA2のタイミングの問題である。A2がD1をブロックした瞬間にA1はD1の側をとおらなければ、すぐにブロックは外れ、D2もカバーにかけつけ、ノーマークは生れない。要はタイミングの問題になる。

2　二人によるパスを伴ったブロックプレー（2図）

ボールをもっているA1は左へフェントを行ない、すぐに右に走る。D1はボールをもっているA1についていく。A2はまず右にフェイントをし、十分にD2を引きつけ、A1がブロックした瞬間に左に動く、そして、A1からパスをもらい、ノーマークになる。要はA1がいかにD1を引きつけ、またD2のブロックに成功するかが、このブロックプレーの成否を握つている。

3　深さのあるブロックプレー（3図）

ポストに入っているA2はエリアラインにD2を固定している。まず左にフェイントをかけざま、右にスタートをきり、D1をブロックする。D1はこれによって、フリースローラインに固定されるその瞬間にA1はD1をふりきりノーマークになる。A1はまず左へフェイントをかけ、ボールを手にし、右へスタートする。

4　ブロックに入った選手を使う（4図）

守備側がチェンヂをし、ノーマークにならなかった場合には、ブロックしている選手を再利用することを考える。A2はD1をブロックするようにスタートする。この時D2は引きつけられずA1をアタックする。その場合A1はすぐにA2にパスを送る。A2はフットワークを使って、ブロックからすぐシュートにうつる。

5　三人の選手を使っての　ブロックプレー（図5、6）

ボールをもっていない選手同士がサイドでクロスし、ブロックをしノーマークになったところにパスを入れる形である。

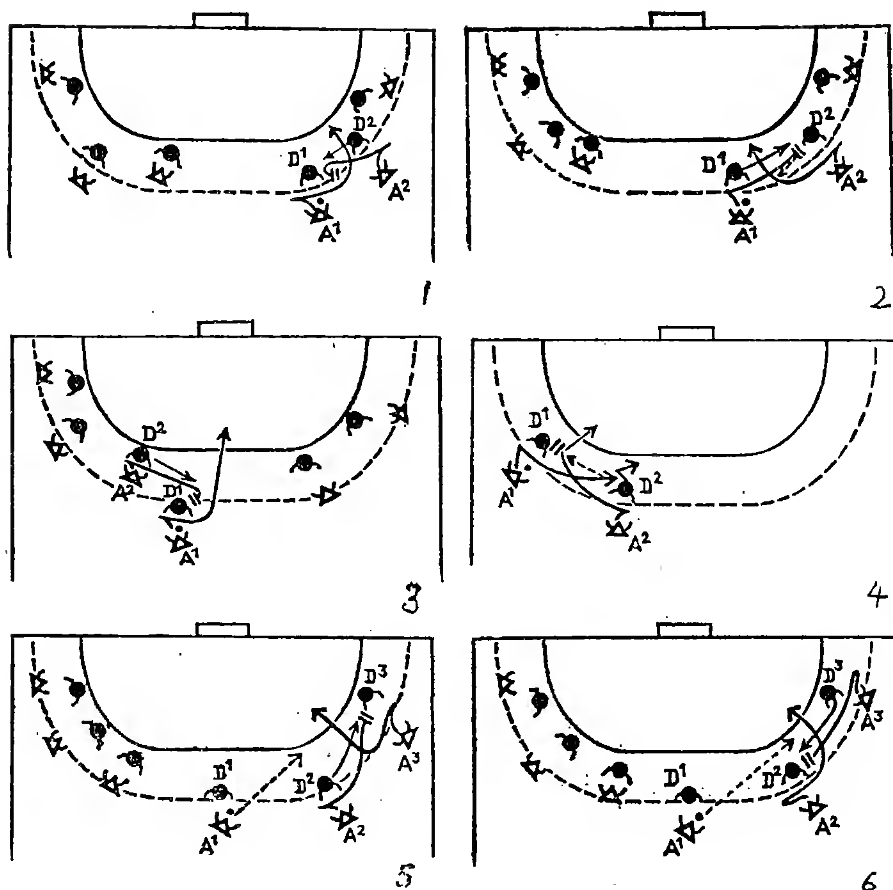
図5の形は、A3が右にフェイントをかけ、左にスタートし、D3を引きつける。A2は左にフェイントをかけ、A3がD2をブロックした瞬間に右にスタートし、ノーマークになったところにA1からパスをもらう形である。

図6は逆にA2がD2を引きつけ、D3をブロックし、A3をノーマークにする形である。

以上のようにブロックにはいくつかの形が考えられるが、いずれも基本的には、二人の選手のクロスによって状況を好転させるところにある。

図上では必ず成功するようであるが、この成否は個々人の技術、特にブロックする人間のスタートと方向（これによって守備側の選手を引きつけ、動かす）、ブロックした瞬間にそこを通り抜けるボールを持った選手のタイミングのとり方が重要となろう。

どの位置をノーマークにしようという積極的な考えで、バックをその位置から連れ去り、その位置には入れないというのがブロックプレーの真面目である。個々人の技術をみがくともにコンビを整えるのもぜひとも必要となろう。



連載（第6回）

ハンドボールの歩み ≪世界選手権編⑥≫

第三回大会もスウェーデンの征覇

　1954年の大会以来、各国に7人制が普及し、ハンドボールの主体は11人制から7人制に移行しつつあった。1955年に男子11人制第4回大会が、1956年には女子11人制大会がそれぞれ行なわれているが、しだいにハンドボール界にも新しい波が押しよせつつあった。

　54年の男子7人制でチェコが3位になったのを手はじめに、55年の男子選手権でチェコが3位に入り、更に翌56年の女子11人制世界選手権では、優勝がルーマニア、3位がハンガリーというように東欧圏の進出がめだってきた。

　57年の女子世界選手権になると一位チェコ、二位ハンガリー、三位ユーゴーと東欧圏が金・銀・銅を独占するに至った。

　西欧・北欧圏を中心にして発展していたハンドボールもその中心が完全に東欧圏に移った感が強くなった。

　男子ヨーロッパ杯選手権大会もこの第3回世界選手権大会の行なわれる前年にはじまり、チェコのプラーグ市チームガ優勝を飾っている。

　いろいろな意味で新しい傾向が現われ、それがこの大会にどのような形で反映するか大いに興味がもたれた。

　参加国も16ケ国と増え、ブラジルというアメリカ大陸からの初参加もあり、話題の多い大会であった。

　参加チームを4グループにわけ予選リーグ、上位2チームずつを二つに分けた準決勝リーグ、その一、二、三、四位同士による一、三、五、七位決定戦を行なうという現存の選手権規定同様の試合方法である。

▽予選リーグA組

スウェーデン　31—1　スペイン
ポーランド　14—14　フィンランド
スペイン　19—16　フィンランド
スウェーデン　19—14　ポーランド
ポーランド　15—11　スペイン
スウェーデン　27—16　フィンランド

一位　スウェーデン　3勝
二位　ポーランド　1勝1敗1分
三位　スペイン　1勝2敗
四位　フィンランド　2敗1分

　スウェーデンとポーランドが準決勝リーグに進出することになったい。ずれの試合もスウェーデンは危げなく勝ち、順調に進出した。スペイン、フィンランドは力足らずに敗れた。

▽予選リーグB組

ドイツ　46—4　ルクセンブルグ
ノールウェー　17—13　フランス
ノールウェー　41—8　ルクセンブルグ
ドイツ　32—12　フランス
フランス　41—8　ルクセンブルグ
ドイツ　19—9　ノールウェー

一位　ドイツ　3勝
二位　ノールウェー　2勝1敗
三位　フランス　1勝2敗
四位　ルクセンブルグ　3敗

　東西両ドイツから選抜した統一ドイツチームが混成チームの弱点をさらすことをなしに、圧倒的強さで準決勝リーグに進出した。

▽予選リーグC組

チェコスロバキア　27—17　アイスランド
ハンガリー　16—16　ルーマニア
アイスランド　13—11　ルーマニア
チェコスロバキア　26—11　ハンガリー
ハンガリー　19—16　アイスランド
チェコスロバキア　21—13　ルーマニア

一位　チェコ　3勝
二位　ハンガリー　1勝1敗1分
三位　アイスランド　1勝2敗
四位　ルーマニア　2敗1分

　チェコを除くといずれもドングリのせい比べといったところ、チェコは前回の三位の実力を余すことなく発揮し、快勝し、準決勝リーグに進出した。

▽予選リーグD組

デンマーク　32—12　ブラジル
ユーゴース　35—8　オーストリア
ラビア

オーストリア 24—12 ブラジル
デンマーク 20—12 ユーゴースラビア
ユーゴースラビア 22—9 ブラジル
デンマーク 22—18 オーストリア

一位 デンマーク 3勝
二位 ユーゴースラビア 2勝1敗
三位 オーストリア 1勝2敗
四位 ブラジル 3敗

古豪デンマークが順当に勝利を得た。ユーゴーは今一歩の力がをらなかった。

各予選リーグとも順当な結果が得られ、各組の1位がそれぞれ、図抜けた力をもっていることが明らかになった。

準決勝リーグはA組の1・2位とD組の1・2位が、B組の1・2位とC組の1・2位が対戦する形をとることになり、これは現在の16チーム方式とは異っている。

それぞれの予選リーグの対戦はそのまま生かされることになっていて、各組4試合が行なわれた。

▽準決勝リーグ1組

ドイツ 22—15 ハンガリー
チェコスロバキア 21—10 ノールウェー
ノールウェー 23—11 ハンガリー
チェコスロバキア 17—14 ドイツ

一位 チェコスロバキア 3勝
二位 ドイツ 2勝1敗
三位 ノールウェー 1勝2敗
四位 ハンガリー 3敗

力をつけたチェコが混成ドイツチームを破り、東欧時代の先駆となったことは特筆されよう。この大会。チェコチームには現在のチェコのコーチ・ベードリッヒ・ケーニッヒ氏が選手として参加している。

▽準決勝リーグ2組

デンマーク 22—15 ポーランド
スウェーデン 26—9 ユーゴースラビア
ポーランド 9—7 ユーゴースラビア
スウェーデン 13—12 デンマーク

一位 スウェーデン 3勝
二位 デンマーク 2勝1敗
三位 ポーランド 1勝2敗
四位 ユーゴースラビア 3敗

スウェーデン——デンマークの一戦は前半スウェデンが5—5のあと23分から連続3ゴールをあげ8—5とリードし終る。その後デンマークが追いあげ、11—9とリードした時には、観衆はデンマークの勝利を信じた。ところが、デンマークはたちまちのうちに2ゴールを入れられ、11—11の同点更に自陣エリア際でボールを得たアーリングが全競技場をドリブルして、加点し、スウェーデンがリードを奪った。更にデンマークに7mが与えられ、会場は湧きに湧いた。しかしツアハリッソンのゴールでさしもの激戦にも終止符がうたれた。正に球史に残る一戦といってよいであろう。

このあと一、二、三、四位同士によって、一、三、五、七位決定戦が行なわれた。

一位決定戦
スウェーデン 22 (12—7, 10—5) 12 チェコ

三位決定戦
ドイツ 16 (6—7, 10—6) 13 デンマーク

五位決定戦
ポーランド 20 (9—10, 11—8) 18 ノールウェー

七位決定戦
ハンガリー 24 (14—7, 10—9) 16 ユーゴースラビア

結局スウェーデンがチェコに大差をつけ、優勝したが、この時のチェコのメンバーには、今なお、第一線のプレーヤーとして活躍している。GKのヴイチヤ、FPのマレス、トロヤンなどが大活躍をしている。彼等の選手生命の長さを改めて、知らされるのである。

この大会は色々な意味で7人制ハンドボールの一大転機になっている。一つはスウェーデンが優勝を飾ったが、これは正に北欧圏最後の花といった感じの優勝である。

北欧圏が7人制ハンドボールの主流でありえたのもこの大会までで、スウェーデン、デンマークの7人制の第1次発展地から栄冠は次の発展地である東欧へ流れることになっていく。この大会の成績を見た時、誰がその後のルーマニアの活躍を予想できたであろうか4年間の練習は大きいことをつくづく感じる。

まずチェコの上昇、ついでルーマニアが男女ともタイトルを握るという東欧主体の時代が訪れる。

優勝メンバー

GK{マットソン

FP{
H・オルソン
L・オルソン
ダニールソン
イエンソン
H・カールソン
ケンペンダール
ツァツ.ハリッソン
エケロス
アールリング

続・全日本高校 各県予選記録

★太字は代表校
★6月24日以降報告分

▽……北海道
▼男子1回戦
室蘭清水丘 22―8 札幌商
室蘭商 24―12 釧路商
室蘭工 20―4 札幌月寒
紋別南 23―9 函館ラ・サール
紋別北 34―12 釧路工
▽同2回戦
函館工 13―11 室蘭東
北見工 22―14 北海道日大
函館東 10―9 室蘭清水丘
室蘭商 14―8 函館商
室蘭工 17―13 函館有斗
登別大谷 20―12 紋別南
登別 15―11 函館大谷
紋別北 17―9 函館中部
▽同準々決勝
函館東 14―7 函館工
室蘭商 21―11 北見工
室蘭工 20―10 登別大谷
紋別北 12―10 登別
▽同準々決勝
函館東 12―10 室蘭商
室蘭工 14―12 紋別北
▽同決勝
函館東 16―5 室蘭工
▼女子1回戦
函館遺愛 7―5 札幌月寒
室蘭東 12―5 函館女商
江差 8―6 紋別南
室蘭商 20―0 函館商
稚内大谷 7―5 室蘭栄
▽同準々決勝
函館遺愛 5―4 登別
室蘭東 11―6 紋別北
室蘭商 21―3 江差
函館東 10―2 稚内大谷
▽同準決勝
室蘭東 12―1 函館遺愛
室蘭商 12―1 函館東
▽同準決勝
室蘭商 11―5 室蘭東

▽……富山県
▼男子1回戦
富山商 43―2 富山中部
高岡商 18―9 八尾
高岡東 10―6 富山工
雄山 18―14 大沢野工
高岡 25―2 富山東
二上工 11―10 富山
▽同準々決勝
小杉 10―6 富山商
高岡商 10―6 高岡東
氷見 10―9 二上工
高岡 17―12 雄山
▽同準決勝
小杉 16―9 高岡商
氷見 9―5 高岡
▽同決勝
小杉 21―7 氷見
▼女子1回戦（＝準々決勝）
有磯 30―0 高岡
小杉 12―6 富山北部
富山女 6―0 清光
高岡女 シードによる不戦勝
▽同準決勝
高岡女 7―1 富山女
有磯 13―8 小杉
▽同決勝
高岡女 8―7 有磯

▽……京都府
▼男子1回戦
平安 25―8 洛東
洛北 12―10 日吉丘
大谷 25―6 鴨沂定時制
田辺 16―15 嵯峨野
▽同2回戦
洛星 26―9 平安
立命館 17―12 城南
鴨沂 27―6 桂
塔南 20―11 洛北
乙訓 18―7 大谷
西京商 17―7 同志社
桃山 25―13 堀川
伏見工 23―6 田辺
▽同準々決勝
洛星 41―3 立命館
塔南 21―9 鴨沂
乙訓 21―12 西京商
伏見工 19―6 桃山
▽同準決勝
洛星 17―7 塔南
乙訓 12―11 伏見工
▽同決勝
洛星 24―12 乙訓
▼女子1回戦（2試合）
鴨沂 7―6 嵯峨野
明徳商 13―2 洛東
▽同準々決勝
西京商 8―7 塔南
京都女 6―4 桃山
明徳商 10―5 乙訓
鴨沂（没収試合）精華
▽同準決勝
西京商 14―2 鴨沂
明徳商 9―5 京都女
▽同決勝
明徳商 14―10 西京商

▽……高知県
▼男子1回戦
小津 16―13 須崎
中村 32―4 高知中芸
土佐 15―3 須崎工
宿毛農工 12―8 弘岡農
▽同準々決勝
幡多農工 24―4 小津
高知西 19―10 中村
伊野商 8―7 土佐
追手前 24―8 宿毛農工
▽同準決勝
高知西 10―7 幡多農工
伊野商 8（分）8 追手前
抽せんにより伊野商の勝ち
▽同決勝
高知西 14―7 伊野商
▼女子1回戦（＝準々決勝）
山田 6―1 中村
追手前 12―2 幡多農工
▽同準決勝
高岡 9―1 山田
高知西 8―3 追手前
▽同決勝
高知西 7―5 高岡

▽……福岡県
▼男子1回戦
明善 20―8 福岡電波
香椎 27―7 田川商

南筑 13—11 宗像、

▽同2回戦
若松 17—5 明善
筑紫中央 21—9 八幡工
小倉西 17—8 福岡工
香椎 18—8 田川工
久留米工 17—12 東海五
博多工 35—13 嘉穂農
西南 22—10 門司
小倉工 26—12 南筑

▽同準々決勝
若松 16—11 筑紫中央
香椎 17—11 小倉西
久留米工 21—16 博多工
小倉工 23—11 西南

▽同準決勝
香椎 13—12 若松
小倉工 25—10 久留米工

▽同決勝
小倉工 21—16 香椎

▼女子準々決勝（＝1回戦）
明善 13—6 築紫女
古賀 18—3 福岡女商
福岡女 18—8 信愛女学院
室見丘 21—8 筑紫中央

▽同準決勝
明善 10—3 古賀
福岡女 10—2 室見丘

▽同決勝
明善 19—5 福岡女

▽……沖縄（一部既報）

▼男子1回戦
興南 29—8 沖縄
糸満 18—11 コザ
知念 28—13 真知志
那覇 20—7 豊見城
沖縄工 25—12 八重山
首里 19—13 北農
那覇商 18—9 浦添

▽同準々決勝
興南 29—8 糸満
那覇 21—12 知念
沖縄工 13—9 首里
小禄 13—6 那覇商

▽同準決勝
興南 15—12 那覇
小禄 13—12 沖縄工

▽同決勝
興南 16—11 小禄

▼女子1回戦
那覇 12—7 糸満
那覇商 27—2 中央
八重山農 7—3 沖縄
浦添 10—2 知念
首里 10—0 コザ

▽同準々決勝
豊見城 8—7 那覇
興南 12—9 那覇商
小禄 39—3 八重山農
首里 5—4 浦添

▽同準決勝
興南 11—5 豊見城
小禄 24—1 首里

▽同決勝
小禄 19—6 興南

全日本高校予選記録掲載にあたり各県高体連関係者の協力を得ましたことを紙上から感謝いたします。記録未着の県を残していますが今号をもって打ち切らせていただきます（機関誌編集部）

「抽せん試合」と「没収試合」

○……本誌の全日本高校各県予選記録を見ていると、たとえ全国大会出場の夢がかなえられなくともその一試合々々に青春をかけた若い選手たちの幸福そうな顔と躍動ぶりが感じられ、思わず体のなかに熱いものが走るが、毎夏ながら〝なんとかならぬか……〟と思うことが二つある。

それは「抽せん勝負」と「没収試合」だ。

○……力のかぎり、精根つきはてた敢斗のあとに待つ「抽せん」という冷酷な手段は、いつごろ、誰が考え出したのだろう。

一瞬後に写し出される両チームの明暗に、スポーツの美しさを見つけ出すことはできない。

誰に聞いても「このような方法は採りたくありません」という。「再々延長、再試合などが理想ですが、大会の運営のためにはやむを得ないのです」とつけ加えられる。

スケジュール表どおりに運行されない場合に生ずる混乱を防ぐには人為的な勝負の結着もしかたはないが、はたして「抽せん」が最善の方法だろうか。

○……「抽せん」が採用されるのは、その他の方法では大なり小なり誰かの主観が加わり公平を欠くことになるから、らしい。

だが、勝負というものは、あくまで技心体のいずれか、またはそれらの総合した力で優劣が決せらるものではないのだろうか。

技倆伯仲、あとは天にまかせるというのはあまりにも投機的だ。

主観が加わるというものの、たとえば反則数の多少、与えた7MTの多少などで勝負を判定する方法は考えられぬものか。

すくなくとも「抽せん」よりも試合的であり、なっとくのいく対策であるように筆者は思う。

くじびきという無情な方法で負け雄図を空しくするチームやプレイヤーのうちしおれた不運な姿が、一日もはやくグランドからなくなることを願ってやまない。

○……「没収試合」――主催者が一方または両チームから、試合する権利をとりあげることをいう。

試合をするにはいくつかの制約がある。競技規則にのっとったものはもちろん、その大会の特別規程や、ローカル・ルールなどそれは多様である。そうした〝きまり〟を守ることがスポーツであり、スポーツの安全につながる。

ところが、毎年、地方、中央を問はず、試合の没収が十件はおきている。

没収試合の原因は、ほとんど選手資格の違反である。ベンチをあずかるもののちょっとした不注意、不手際がとりかえしの出来ぬ事態へおとしいれてしまう。

○……不正行為や反スポーツマンシップによる没収は、まったく同情の余地はないが、事務的な失敗による不覚は、事前に防げる。

関係者は充分に注意して、この不幸なできごとをなくして欲しい。

選手資格や交代選手のルール違反がおこる一因として、通常の試合でこうした面の管理がイージーにすごされていることをあげてよいと思う。

公式大会につながらぬ地方大会は、記録員の配置もおざなりだ。

その風潮がしみっいて、だいじな時に失敗を招くのだ。

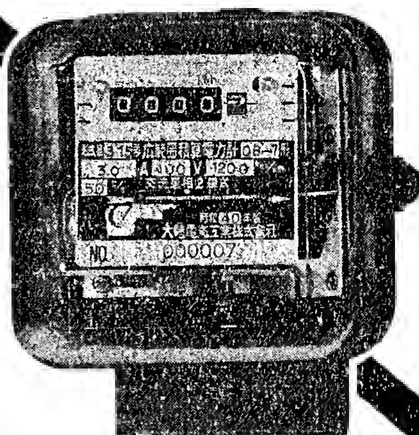
また、要項などの〝選手資格〟に、具体的な指示をしていないのもよくない。すべてが〝完全〟であれば「没収試合」などという不愉快なことばは、ハンドボール界から永久に消してしまうことができるだろう。（S・S）

Osaki

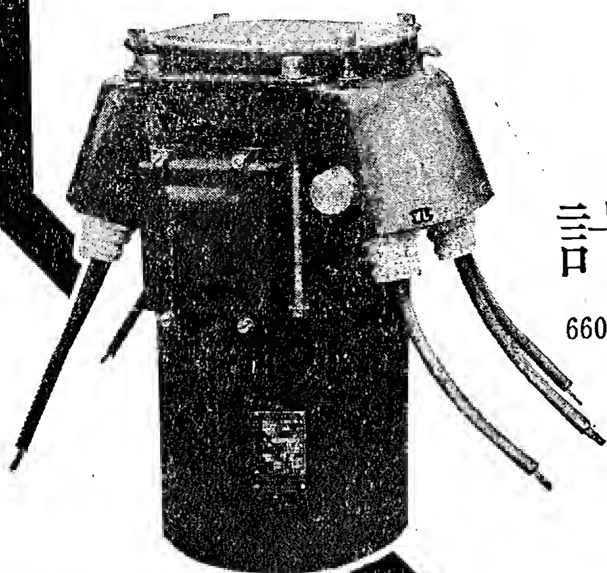
最高の確度と信頼度を持つ

電力量計

単相用	OB－7形
3相用	OW－7形
精密用	OP－3形



OB－7形広範囲単相積算電力計



計器用変成器

6600V用重予型PCT　PDN形

主要製品

電力量計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤



大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場　東京都品川区東五反田2－2－7　電話東京（443）7171代表
蒲田工場　東京都大田区多摩川2－8－1　電話東京（732）6511代表
埼玉工場　埼玉県入間郡三芳村大字藤久保　電話0492－61－1205

連載・技術教室④

ボールの保持時間と得点の関係（下）

～埼玉国体ハンドボールから～

高　橋　健　夫

（日本協会普及委員）

③　前，後半のボールの保持時間について

各チームの後半のボールの保持時間と前半のボールの保持時間との関係をみて，そのチームのゲーム運行状態を考察してみたい．

（表4）は各チームの後半の記録から前半の記録を引いてその増加状況をみたものである．

この表にあらわれた結果は前節同様男子と女子の記録に全く相反した数値がしめされている．すなわち女子は勝チームが敗チームより優位な数値をしめしているが，男子は逆となっている．つまり女子では勝チーム平均は1分27秒4と減少しているのに対して敗チームは2分20秒0と増加し，比較では1分48秒2勝チームが優れている．又得点でも，平均値が勝チームの2点増に対して敗チームの1点減差引3点の優位をしめしているが，男子では勝チームの平均値が17秒8と増加し，敗チームは1分02秒4と減少し，比較では1分20秒2の増加となっている．得点をみても平均値で勝チームが3．7の増加に対して敗チームの2．04で比較は僅か1．66の増でしかない．

つぎに個々の考察の便のためこれを前半の記録の％であらわすと表4′となり，傾向は一層明瞭となる．

これによると，勝チームで後半最も合理的な攻撃をしたのは栃木女子高校で，次いで埼玉教員ク，大崎電気，大洋デパート，田村紡績，明星高校の順となっている．

記録の中で高校の岩国工高～明星高校，教員の大阪イーグルス～埼玉教員クの2ゲームは何れも敗チームが前半より後半に好記録をのこして，1点差で勝敗が決している点コンディショニングによる結果ともみることができよう．

又，女子高校の花巻南高の127.6％の値つまり1点をとるのに2倍以上の時間を要した拙攻は反省に価しよう．

俗にいわれる後半に強いチームが勝つということもこの結果からも肯定できるようだ．

以上の結果からゲーム運行の作戦の必要性および，ゲームの勝敗についての反省資料に供することもできよう．

④　得点とロスタイムの関係について

得点とロスタイムの関係をみると，全体に相関関係が高いことがしられる．これは，得点後の試合再開のルールからも肯づけることであろう．

では，これが個々のゲームにはどのようにあらわれているか，考察するために表5にまとめてみた．

まずこれを平均値でみると，男子と女子では相反した結果が示されている．つまり，男子では高校，一般とも後半が前半より少なくなっているが，女子では，逆に増加している．

種別にみる高校女子が最も多く，前後半とも1点に対して1分をこえている．他は表にみられるように30秒前後となっている．

つぎに各ゲーム別にみると，女子では一般準決勝の大崎と全大阪の試合を除いては何れも後半が多く，決勝では22秒8の増加を示している．

男子では，高校，一般の決勝，教員準決勝の大阪対福岡の試合が僅かに後半増加しているが，他の5試合は何れも後半減少している．特に一般準決勝大崎対熊本の試合は22秒0の減少となっている．

以上の結果からみて，実力の接近したチーム同士の対戦では後半が前半よりロスタイムが多い結果となっていることがうかがわれる．

後半記録—前半記録の各チーム別比較

（表４）

		勝チーム				敗チーム				比較		
		チーム名	保持時間	得点	time/1	チーム名	保持時間	得点	time/1	保持時間	得点	time/1
女子	高	栃木女子高	−3′21″3	2	−6′56″5	花巻南高校	1′03″4	−1	4′53″0	−4′24″7	3	−11′50″2
	一般	大洋デパート	−52″0	2	−26″1	東京重機工業	37″9	−2	2′41″4	−1′29″9	4	−3′07″5
		大崎電気	−4″9	3	−15″3	全大阪	29″8	0	10″0	−34″7	3	−25″3
		田村紡績	−1′31″6	1	−41″3	大洋デパート	−51″3	−1	3′49″1	−40″3	2	−4′30″4
		合計	−5′49″8	8	−2′04″8	合計	1′19″8	−4	2′53″4	−7′09″6	12	−4′58″4
		平均	−1′27″5	2		平均	20″0	−1		−1′47″4	3	
男子	高校	明星高校	10″6	0	2″1	岩国工業高	−1′27″0	3	−2′12″3	1′37″6	−3	2′14″4
		〃	−1′41″2	2	−30″4	桜台高校	27″2	0	6″8	−2′08″4	2	−37″2
	一般	大崎電気	29″3	13	−31″2	熊本ドンキーズ	5″8	−3	2′21″0	23″7	16	−2′52″2
		KK三景	1′36″6	3	−9″7	住友化学菊本	−1′28″3	2	39″5	3′04″9	1	29″8
		大崎電気	2′43″1	1	11″7	全神奈川	−3′29″4	0	−41″9	6′12″5	1	52″6
	教員	埼玉教員	−47″6	10	−34″6	山口教員ク	16″6	0	3″3	−1′04″2	10	−37″9
		大阪イーグルス	31″3	3	−5″2	福岡教員ク	−2′31″2	1	−38″5	3′02″5	2	33″3
		〃	−40″0	−3	53″2	埼玉教員ク	−52″8	8	−3′58″2	12″8	−11	4′51″4
		合計	2′22″1	42	−5″5	合計	−8′59″1	23	−42″4	11′21″4	19	36″9
		平均	17″8	3.7		平均	−1′02″4	2.04		1′20″2	1.16	

同上前半記録に対する％

（表 4′）

		勝チーム			敗チーム		
		チーム名	保持時間	time/1	チーム名	保持時間	time/1
女子	高	栃木女子高	−38.3	−79.2	花巻南高校	13.8	127.6
	一般	大洋デパート	−15.8	−39.7	東京重機工業	6.7	117.8
		大崎電気	−1.4	−31.0	全大阪	5.6	5.6
		田村紡績	−19.9	−35.9	大洋デパート	−9.1	81.7
男子	高校	明星高校	2.1	2.1	岩国工業高校	−12.3	−56.2
		〃	−16.8	−35.3	桜台高校	5.3	5,3
	一般	大崎電気	8.4	−62.0	熊本ドンキーズ	6.9	101.3
		KK三景	15.1	−13.6	住友化学菊本	−12.9	−34.6
		大崎電気	35.2	20.2	全神奈川	−22.6	−22.6
	教員	埼玉教員	−12.6	−64.2	山口教員ク	17.6	1.8
		大阪イーグルス	5.7	−13.2	福岡教員ク	−21.2	−32.5
		〃	−4.9	52.1	埼玉教員ク	9.1	−81.5

試合別ロスタイム比較

1．女子（試合時間40分）　　　　　　　　　　　　　　　　（表５）

区分／試合名	前半			後半			合計			
	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	ロス率
高校女子決勝	3	3′35″0	1′11″7	4	5′52″9	1′28″2	7	9′27″9	1′21″2	23.66%
一般女子準決勝	9	5′08″5	34″2	9	5′19″0	35″4	18	10′27″5	34″9	26.15%
〃	10	5′21″5	32″2	13	4′56″6	24″3	23	10′18″1	26″8	25.75%
〃　決勝	6	2′58″8	29″8	6	5′21″7	53″6	12	8′20″5	41″7	20.85%
合計	28	17′03″8	36″5	32	21′30″2	40″3	60	38′34′0	38″5	24.10%
平均	7	4′16″0		8	5′22″6		15	9′38″5		

2．高校男子（試合時間50分）

区分／試合名	前半			後半			合計			
	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	ロス率
準々決勝	8	4′59″9	37″4	11	6′16″3	34″2	19	11′16″2	35″6	22.54%
決勝	11	6′27″6	35″2	13	7′41″6	35″5	24	14′09′2	35″4	28.31%
合計	19	11′27″5	36″2	24	13′57″9	34″9	43	25′25″4	35″5	25.42%
平均	9.5	5′43″8		12	6′59″0		21.5	12′42″7		

3．男子（試合時間60分）

区分／試合名	前半			後半			合計			
	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	得点	ロスタイム	time/1	ロス率
一般準決勝	13	10′12″9	47″1	23	9′37″6	25″1	36	19′50″5	33″1	33.07%
〃　三位戦	15	7′55″0	31″7	20	7′46″7	23″3	35	15′41″7	26″9	26.19%
〃　決勝	13	6′48″6	31″4	14	7′35″7	32″6	27	14′25″1	32″0	24.03%
教員準決勝	12	8′01″8	40″2	22	8′32″8	23″3	34	17′34″6	31″0	29.29%
〃	20	8′56″0	26″8	24	10′55″9	27″3	44	19′51″9	27″1	33.11%
〃　決勝	10	6′41″2	40″1	15	8′14″0	32″9	25	14′55″2	35″8	24.87%
合計	83	48′35″5	35″1	118	52′42″7	26″8	201	102′19″0	30″5	28.42%
平均	13.8	8′05″9		19.7	8′47″1		33.5	17′03″2		

ロスタイムを試合時間に対する％であらわしてると，女子が平均24．10％，高校男子が25．42％，一般及教員男子が28．42％のロス率となっている．

ハンドボールのゲーム時間が，バスケットボールのゲーム時間とすれば，実質的には男子が40分，女子が30分のゲーム時間ですむという見方もなりたつわけであろう．（了）

ブロック高校選手権

全日本高校選手権のトライアルゲームともいうべき各地のブロック高校選手権は、6月末から7月中旬にかけて6大会が開かれ、熱戦譜をつづった。
なお、中国ブロックはすでに終わり（本誌53号既報）、東北及び関東ブロックは8、9月に行われる予定。

第19回 北海道高校

全日本高校選手権の道代表決定戦を兼ねて6月29日、30日の両日函館有斗高校球技場に地区予選を勝ち抜いた男子21校、女子13校が参加して行われた。

本大会出場校は昨年より一挙に13校（男10、女3）がふえ、それにともなって全道平均したレベルアップがみられ充実した試合がつづいた。

男子は予想通りの顔ぶれがベスト・フォアへ勝ち進んだが、準決勝で2連勝を狙う紋別北が室蘭工に敗れる波乱があり、結局、試合運びの巧い函館東が4回目の優勝を飾った。

女子は、室蘭商が圧倒的な強味をみせ、決勝でも同地区の室蘭東に前半で大差をつけ快勝、5年連続優勝をマークした。

なお大会終了後、男女優秀選手各15名が後掲のように発表された。

▽男子決勝

函館東 16（7－3、9－2）5 室蘭工

▽女子決勝

室蘭商 11（7－2、4－3）5 室蘭東

（注）このほかの試合記録は本誌24頁「全日本高校各県予選記録・北海道の項」参照

【昭和43年度優秀選手】 男＝GK丹藤（室蘭東）、越後谷（函館中部）、FP鹿角、沢口、高橋、小林（以上函館東）、小野、目黒、加藤（以上室蘭商）、山本、菅原（以上紋別北）、三谷（室蘭工）江田（函館工）、鷲沢（室蘭東）大渕（北見工）

女＝GK 高田（室蘭商）石岡（稚内大谷）、FP阿保、珍田、小川、後藤、藤浪、菊地（以上室蘭商）、金子、米田、柴田（以上室蘭東）、小松、永井（以上函館東）西尾（紋別北）目谷（室蘭栄）

第4回 北信越高校

7月13、14日の両日石川県金沢市に男子10校、女子6校が参加して行われた。

男子は新進・坂城（長野）の健斗で波乱に富んだ大会となったが決勝では伝統を誇る小杉（富山）が後半地力を発揮して制勝した。小杉の優勝は初めて。上田（長野）の3連ぱは成らなかった。

女子は名門校が今年も攻守に安定したところを見せて上位へ進出決勝は高岡女（富山）―小松市女（石川）の顔合せとなり、第2延長にもつれこむ激戦の結果、高岡女が2年ぶり、通算3回目の優勝をとげた。

▼男子1回戦（2試合）

氷見（富山）14（3－7、11－4）11 若狭（福井）

羽水（福井）16（6－4、10－5）9 柏崎（新潟）

▽同準々決勝

坂城（長野）15（8－7、7－5）12 柏崎工（新潟）

上田（長野）21（9－5、11－0）5 泉丘（石川）

氷見 20（12－2、8－8）10 石川県工（石川）

小杉（富山）18（7－4、11－8）12 羽水

▽同準決勝

坂城 11（6－5、5－5）10 氷見

小杉 19（12－7、7－6）13 上田

▽同決勝

小杉 14（6－6、8－4）10 坂城

▼女子1回戦（2試合）

有磯（富山）12（5－1、7－6）7 柏崎常盤（新湯）

小松市女（石川）14（5－1、9－2）3 上田城南（長野）

▽同準決勝

小松市女 14（8－3、6－8）11 有磯

高岡女（富山）10（5－3、5－5）8 小諸商（長野）

▽同決勝

高岡女 8（3－4、3－2……0－0、2－1）7 小松市女

第15回 東海高校

東海4県の勝者男女各8校により6月22、23日岐阜西工球技場で行われた。この大会は、これまで秋に開かれていたが今年から初夏に移されたもの。

男子は、過去11回の優勝を誇り5連ぱを狙う桜台（愛知）が県予選で敗退し、姿を見せぬという波乱があり混戦模様となったが、ダークホース清水商（静岡）が充実した攻守で好調に勝ち進み優勝。愛知代表以外の優勝は史上初めてである。

女子は静岡同士の決勝となり、好調・清水商が攻守に会心のできを示して名門・城北を零封、初優勝した。男女の同一校優勝は初めて。

▼男子1回戦（＝準々決勝）

中京（愛知）18（10－1、8－4）5 岐山（岐阜）

四日市商（三重）20（10－3、10－2）5 浜松南（静岡）

加納（岐阜）21（9－1、12－1）2 四日市工（三重）

清水商（静岡）15（7－3、8－3）7 豊橋商（愛知）

▽同準決勝

清水商 11（4－3、7－3）6 加納

中京 19（8－5、11－9）14 浜松南

▽3位決定戦

浜松南 24－16 加納

▽同決勝

清水商 21（15－5、6－4）9 中京

▼女子1回戦（＝準々決勝）

静岡城北（静岡）7（2－3、5－3）6 名女商（愛知）

大垣南（岐阜）10（4－3、6－1）4 四日市（三重）

清水商（静岡）11（8－2、3－2）4 津女子（三重）

淑徳（愛知）4（1－1、3－2）3 加納（岐阜）

▽同準決勝

静岡城北 13（6－4、7－2）6 大垣南

清水商 11（8－3、3－3）6 淑徳

▽3位決定戦

淑徳 9－7 大垣南

▽同決勝

清水商 8（5－0、3－0）0 静岡城北

第11回 近畿高校

7月20～22の3日間滋賀県彦根工に近畿6県から男子22、女子16校が参加して行われた。

男子は、激戦を勝ち抜いた洛星—塔南の京都勢による決勝となり洛星が前半のリードを守って2連勝を飾った。

女子は精華女(京都)が堅実な試合運びで勝ち進み、決勝でも健斗の八幡商(滋賀)を押し切って2連勝、京都府代表が男女を制した。

▼男子1回戦

乙訓(京都) 22（11 11—4 5）9 神戸商(兵庫)
佐野工(大阪) 16（9 7—4 5）9 桜井商(奈良)
北陽(大阪) 17（6 11—5 0）5 御坊商工(和歌山)
奈良(奈良) 13（6 7—6 2）8 和歌山商(和歌山)
滝川(兵庫) 16（5 11—5 3）8 伏見工(京都)

▽同2回戦

洛星(京都) 18（10 8—3 5）8 比花工(大阪)
兵庫工(兵庫) 18（9 9—7 8）15 添上(奈良)
乙訓 18（11 7—4 8）12 那賀(和歌山)
佐野工 12（4 8—2 3）5 彦根東
八幡工 14（10 4—5 7）12 北陽
塔南(京都) 11（4 7—4 2）6 御影工(兵庫)
堺工(大阪) 23（13 10—5 4）9 奈良
滝川 23（13 10—4 5）9 高島(滋賀)

▽同準々決勝

洛星 17（9 8—7 4）11 兵庫工
佐野工 15（8 7—3 6）9 乙訓
塔南 18（5 13—7 3）10 八幡工
滝川 14（7 7—8 5）13 堺工

▽同準決勝

洛星 11（5 6—5 5）10 佐野工
塔南 11（4 7—6 4）10 滝川

▽同決勝

洛星 8（3 5—3 3）6 塔南

▼女子1回戦

精華女(京都) 5（2 3—1 0）1 甲子園学院(兵庫)
生駒(奈良) 6（2 4—3 1）4 高島(滋賀)
貴和(和歌山) 8（4 4—2 2）4 住吉学園(大阪)
夙川(兵庫) 7（3 4—3 1）4 明徳商(京都)
大谷(大阪) 9（2 7—1 1）2 守山女(滋賀)
県尼崎(兵庫) 10（3 7—2 5）7 粉河(和歌山)
八幡商(滋賀) 8（5 3—2 3）5 西京商(京都)
十津川(奈良) 8（5 3—2 3）5 豊中(大阪)

▽同準々決勝

精華女 9（4 5—2 4）6 生駒
夙川 5（2 3—0 3）3 貴和
大谷 3（0 3—1 0）1 県尼崎
八幡商 5（1 4—2 2）4 十津川

▽同準決勝

精華女 8（3 5—1 2）3 夙川
八幡商 4（2 2—0 3）3 大谷

▽同決勝

精華女 6（2 4—1 1）2 八幡商

第17回 四国高校

徳島県池田高球技場に四国4県から男女各2校の16代表が参加して行われた。

男子は、今年も新居浜工(愛媛)が各試合とも前半で大勢を決めるという圧倒的な強味をみせて16年連続優勝を飾った。

女子は三本松(香川)が準決勝で敗れ、決勝は新居浜商—土居の愛媛同士で争われた結果、新居浜商が前半から優位に立ち、3年連続優勝を決めた。

▼男子準々決勝(=1回戦)

新居浜商(愛媛) 14（7 7—6 7）13 三本松(香川)
高知西(高知) 18（9 9—7 6）13 池田(徳島)
新居浜工(愛媛) 23（10 13—2 3）5 伸能商(高知)
坂出工(香川) 23（10 13—3 2）5 城北(徳島)

▽同準決勝

高知西 19（11 8—6 5）11 新居浜商
新居浜工 19（7 12—2 5）7 坂出工

▽同3位決定戦

坂出工 11（6 5—5 2）7 新居浜商

▽同決勝

新居浜工 16（7 9—3 1）4 高知西

▼女子準々決勝(=1回戦)

三本松(香川) 8（7 1—1 1）2 高知西(高知)
土居(愛媛) 8（3 5—3 1）4 池田(徳島)
新居浜商(愛媛) 12（5 7—3 0）3 高岡(高知)
観音寺商(香川) 11（6 5—5 2）7 勝浦園芸(徳島)

▽同準決勝

土居 8（4 4—3 1）4 三本松
新居浜商 17（10 7—3 0）3 観音寺商

▽同決勝

新居浜商 8（3 5—0 1）1 土居

九州は熊本勢勝つ

第18回九州高校選手権は7月21、22日長崎市営球技場で行われ、男子は熊本市商、女子は菊池農といずれも熊本勢が勝利をおさめた。(詳報次号)

訂正 本誌55号2頁新人事リストのうち技術部技術指導体系作成委員会・清水正氏とありますのは清水善之氏の誤りでした。清水正氏は審判部長会議メンバーです。両氏に御めいわくをかけましたことをお詫びします。

各地の記録（寄稿歓迎）

一般は男女とも福井勢
高女は小松市女勝つ

第15回北陸3県総合競技会のハンドボールは6月16日富山市・大門中で各部門いずれもリーグ戦で行なわれた。

一般は男女とも国体を地元に控えた福井勢が富山、石川の名門クラブをおさえて優勝を飾り注目された。

高校は、男子が小杉（富山）、激戦の女子は小松市女（石川）が堅実な試合運びでそれぞれ首位となった。

▽一般男子

福井教員（福井）28（13−7、15−15）22 氷見ク（富山）

福井教員 33（15−7、18−11）18 県エク（石川）

氷見ク 22（10−5、12−8）13 県エク

【順位】①福井教員②氷見ク③県エク

▽同女子

全福井（福井）18（10−4、8−3）7 氷見ク（富山）

全福井 36（19−0、17−1）1 羽咋ク（石川）

氷見ク 25（16−1、9−4）5 羽咋ク

【順位】①全福井②氷見ク③羽咋ク

▽高校男子

小杉（富山）15（7−3、8−7）10 羽水（福井）

羽水 24（14−4、10−6）10 小松（石川）

小杉 18（10−7、8−3）10 小松

【順位】①小杉②羽水③小松

▽同女子

高岡女（富山）7（3−3、4−0）3 福井商（福井）

小松市女（石川）9（5−4、4−2）6 福井商

小松市女 8（4−2、4−4）6 高岡女

【順位】①小松市女②高岡女③福井

愛知協会で30才以上大会開く

30才以上のオールドプレイヤーを集めて開く愛知協会の恒例行事「第2回オーバー・サーティハンドボール大会」は7月9日夜、名古屋の金山体育館に19人が参加して開かれた。

大会は栗脇嶷氏（47才・愛知協会理事長）、伊藤和夫氏（40才・同常任理事）ら教職畑の10氏が「愛知教員ク」として一チームを編成、他のメンバーで組んだチームとダブルヘッダーを行い第1戦13−13、第2戦15−13で選抜軍（？）が教員クを破り、小杉仁造愛知協会長から寄贈のカップを獲得した。

愛知協会では、次回あたりから参加者を県内に限らず、東海、近畿、関東など近接地域にも広げ、将来は全国規模の催しにしたい意向である。

大阪市が2連勝飾る

第19回5大都市体育大会ハンドボール競技は7月13、14日の両日京都で行われ、大阪市が各試合に堅実な強味を示し全勝、2年連続通算3回目の優勝をとげた。

【順位】①大阪4戦全勝②名古屋3勝1敗③横浜1勝2敗1分（得点77）④京都1勝2敗1分（60）⑤神戸4敗

花巻南高敗れる

第20回岩手県民体育大会ハンドボール（7月・盛岡）

▽高校男子準決勝

盛岡商 19−12 花巻北

盛岡一 11−7 一関市工

▽同決勝

盛岡商 22（9−4、13−5）9 盛岡一

▽同女子準決勝

花巻南 15−3 平館

花巻農 4−3 黒沢尻南

▽同決勝

花巻農 6（4−2、2−2）4 花巻南

▽一般準決勝（男子のみ）

岩手大 25−21 岩手教員

盛岡商友会 29−11 花巻ク

▽同決勝

岩手大 25（12−8、13−13）21 盛岡商友会

お詫びとお願い

本誌54号（6月号）及び55号（7月号）の発送が一部手ちがいのため未着あるいは延着いたしましたことを深くお詫びいたします。

これは日本協会の登録〆切が5月末日で、それにともなう機関誌送付先の書きかえ事務に手まどったためです。クラブ及び実業団を除く諸チームにおかれましては、発送業務円滑化のためチーム（学校）所在地を機関誌送付先に指定されますよう御協力下さい。

昭和43年8月1日

読者各位

日本ハンドボール協会機関誌編集部

本会人事

日本協会では事務局員として、次の3名を決めた。

▽大越　秀雄（6月1日付）

▽腰塚　秀代（7月20日付）

▽並木三恵子（7月26日付）

編集後記

○……暑い日が続いています。

今号はインカレ―日体大の初の男女優勝で飾られた―を中心に扱いました。

インターハイ、総合、教職員、さらには高校チームの訪韓、忙しい日々が続きます。

韓国球界がどのような成長をとげているか注目されましょう。

今月末には、アムステルダムでIHF総会。各国から規約の変更、規定の変更、ルールの変更などの盛沢山な議題が提出されているもようです。

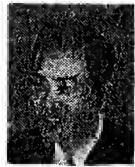
もちろんオリンピックも中心議題になるでしょう。ミュンヘンのオリンピックが成功裡におわるように、十分検討してほしいものです。

馬場副会長、荒川理事長、御苦労さまですが、日本ハンドボール界にいいお土産を期待しています。

平林さんの退職の後、機関誌は事務をとる人がなくて困っていました。大腰さん、河原井さんに無理をいってやってもらっていましたが、今度事務局に入った並木三恵子さんにやってもらうことになりました。

腰塚秀代さんに続いて並木三恵子さんを迎え、事務局も活潑に活動できるでしょう。（TF）

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

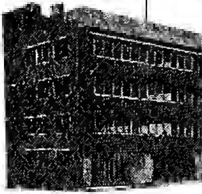

営業二課／栗田満夫

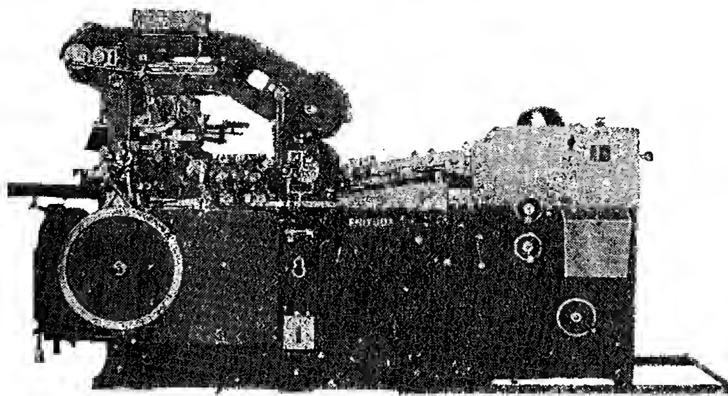
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。


営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。


営業三課／打林行夫


本社新社屋

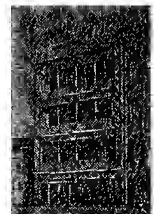


新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　社　東京都千代田区神田猿楽町1－4　TEL　東京(292) 2011（代）－8
横浜支社　横浜市西区高島通り1－7　TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社　福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）　TEL　福岡（28）3960・0153
立川工場　東京都昭島市東町1丁目1番地5号　TEL　立川(0425) 2－2470・4383
九州工場　佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　TEL　牛津　72


横浜支社

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第五十六号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十三年七月二十五日印刷
昭和四十三年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八二四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）